はじめに

「主語がちゃんと書いてないから、どんどんわけわかんなくなる」↓「だから古文なんかキライ」。そう思ってしまう前に、こう考えてみたことはないですか？

「どうして昔の人たちは、主語が書いていない文章を見て、ちゃんと理解できていたのだろう？」

そうです、昔の人たちは無意識でしょうが、「何か」に注目して読んでいるのです。その「何か」を知れば、現代人の私たちだって、昔の人たちと同じように古文が読める！ということですよ。

本講座では、実際の入試問題を使用して、その「何か」＝「読解のルール」を中心に解説していき、さらに「古文常識」や「作品常識」などにも触れていきます。

「主語把握方法」、「会話文中の主語判断法」などの「読解のルール」を掴んで、昔の人たちがどんな所に目をつけて読んでいたのか、辞書なしで読んでいたその時代の人たちの世界を、全十二回で体感してください！

なお、「文法」はできているものとして授業を行います。「文法が苦手だ」という人は、先に「高1高2古文〜文法編〜」の授業を受講してから、この講座を受講することをオススメします。一見、遠回りのように思うかもしれませんが、文法をきっちりやるほうが、読解する上で結局近道となりますヨ。

それでは、初見の文章を自力で読めるようになるために、一緒にやっていきましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

第一講は予習不要です。初めての読解の授業ですので、「読解のルール」などを一緒に確認した上で、入試問題に取り組んでいきましょう。**第二講以降は**、前回までに学習したことを踏まえて、**予習をしてください**。ノートに本文を写すとか、そういう作業は一切不要です。テキストに直接書き込んでかまいませんので、辞書などは使わずに自力で解きましょう。回数を重ねる度に、どんどん自力で自信をもって解けるようになっていくはずですヨ！

予習が終われば、なるべく時間をあけずに該当講の動画を見てください。時間が経ってしまうと、せっかく予習をしたのに、どんな話だったか、どうしてその解答を選んだのか忘れてしまうので、覚えている間に見ることが重要です。あらかじめ板書している本文に、書き込みをしながら授業を進めていきます。私が黒板に書くことを、みなさんもテキストの本文に同じように（色は何色でも、一色でもかまいません）どんどん書き込んでください。こちらも回数を重ねると、予習の段階で、自分で先に本文中に必要な印や記号がどんどん付けられるようになるはずです。そうなれば、自分が予習の段階で書いたものと、私が書いているものが同じかどうかという目線で動画を見るようにしてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしましょう。「復習＝問題を解きなおす」のではなく、

① 講義の中でお伝えした **「読解のルール」**（**「古文常識」「作品常識」**を含む）を覚えこむこと、
② 本文に付けた**印や記号が、どういう根拠でつけたもの**なのか、また**「主語」をどのように確定したのか**を再確認すること、
③ 各講の解答に掲載してある**〈重要単語〉**（特に**太字**）を覚えること、

の３点を重点的にしてください。そのうえで、間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰していきましょう。文法の講義同様、復習が終われば後ろにある「復習問題」も解いてくださいネ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　読解の方法・手順／『浮世物語』……p. 4
第二講　『今昔物語集』……p. 12
第三講　『雲萍雑志』……p. 18
第四講　『俊頼髄脳』……p. 27
第五講　『中務内侍日記』……p. 34
第六講　『大鏡』……p. 41
第七講　『宇治拾遺物語』……p. 47
第八講　『新花つみ』……p. 57
第九講　『あきぎり』……p. 66
第十講　『大和物語』……p. 74
第十一講　『宇津保物語』……p. 81
第十二講　『今鏡』……p. 89

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　読解の方法・手順／『浮世物語』

予習不要

〈主語把握方法〉

①

② **接続助詞**のルール

③ **敬語**を使う

④

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈手順〉

① **設問**確認→解ける問題（単語・文法・知識問題）は先に解く。
内容合致問題があれば、選択肢を先にざっと読んで大まかな内容を予測する（詳細は今後の講義中で解説）。

② **注釈**確認→注釈があれば、本文中に注マークがついているかどうかを確認。

③ **リード文**（前書き）確認→きちんと情報をつかんでおく。

④ **出典**（作品名）確認→特に「日記・随筆」のジャンルの場合に気をつける！
「　　　＝　　　」が登場人物の一人である！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習問題〉

次の文章を読み、後の問に答えよ。

今はむかし、浮世房、篠田(しのだ)の方へ行きたり。いにしへ篠田の杜(もり)には名誉の狐ありて、往来(ゆきき)の人を化かすといへり。篠田村のなにがしとかやいふ者、住吉に詣(まう)でて帰るとて、道のほとりにて美しき女に行き合ひたり。とかくかたらひて夫婦となり、家に帰りて年を経たるに、一人の子を生みけり。その子五歳のとき、母にいだかれてありしに、(a)尾の見えければ、これを恥(はづか)しがりて、かの母もとの狐の姿になりつつ、篠田の杜に立ちかくれたり。夫はこの年頃あひ馴(な)れて、(b)それとは知りながらさすがに名残の惜しく思はれつつ、かくぞ詠み［A］。

　子を思ふ闇の夜ごとにとへかしな昼は篠田の杜に住むとも

と詠じてうち泣きけるを、妻の狐は立ち聞きて、かぎりなく悲し、と思ひつつ、窓をへだててかくぞいひ［A］。

　契りせし情けの色のわすられで我は篠田の杜に啼(な)くなり

と詠じけり。かくて、夫田をつくれば、かの狐来たりて夜の間に早苗を植［B］、水をせき入れ、草をとりけるほどに、年ごとに満作なりしかば、家大(おほい)に富みさかえけるとなり。浮世房(c)この事を思ひ出(い)だし、あはれをもよほしけるが、篠

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

田の村の方へ行くと思へども、在所は手にとるやうに見えながら行き着かず。夜ひと夜歩きて、やうやう明方になり、それよりすこし心づきて、「これはいかさま狐の化かして、かやうに連れ歩くか」と思ひ、「日ごろ聞きたることあり」と、顔を懐にさし入れて袖口よりのぞきて見れば、背中のはげたる古狐、うしろ足にて立ちて先に行く。「(d)されこそ」と思ひ、声をあげて、「生首切られの古狐め」とて追ひかけたれば、田畦ともいはず、狐は逃げてうせぬ。浮世房は、夢のさめたる心地して、「ここはいづくぞ」と人に問へば、「天王寺の前なり」といふ。「口惜しくも化かされけるかな」と思へども甲斐なし。

（『浮世物語』）

（注）
篠田…大阪府和泉市信太のこと。
名誉の…怪しくふしぎなの意。
在所…田舎の意。本文では目的地の篠田村を指す。
生首切られ…生きたまま首を切られてしまうの意。相手を激しくののしる語。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　空所[A]に当てはまる助動詞として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

①　き　②　しか　③　たり　④　ける　⑤　けれ

問二　空所[B]に当てはまる動詞の活用語尾として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

①　え　②　ゑ　③　へ　④　う　⑤　ふ

問三　傍線部（a）について、尾を見たのは誰か。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

①　夫　②　子　③　妻　④　浮世房　⑤　人

問四　傍線部（b）、（c）の指示内容として、それぞれ最も適切なものを次の中から一つ選べ。

（b）

①　妻が篠田の杜に隠れたこと
②　篠田の狐が人を化かすこと
③　妻が狐であること
④　子が五歳になったこと
⑤　浮世房が狐を退治しに来たこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（c）
①　浮世房が篠田に行こうとしていたこと
②　名誉の狐が人を化かすという言い伝え
③　浮世房が住吉明神に詣でようとしていたこと
④　化けた狐の正体を見破る方法
⑤　篠田に伝わる、ある男と妻になった狐との伝説

問五　傍線部（d）の内容を表している本文中の表現として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

①　名残の惜しく思はれつつ　　②　あはれをもよほしける
③　日ごろ聞きたることとあり　　④　生首切られの古狐め
⑤　口惜しくも化かされけるかな

問六　本文の内容は大きく二つにまとめることができる。そのまとめ方として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

①　浮世房が篠田に行ったことと浮世房が篠田狐に化かされること
②　篠田村の男が美しい女と夫婦になったことと女が狐だったこと
③　浮世房が化かされたことと聞いていた方法で正体を見破ること
④　篠田に伝わるある男と狐のお話と浮世房が狐に化かされたこと
⑤　男が結婚した相手が狐だったこととおかげで家が繁栄したこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①「さればよ」を現代語訳したものとして正しいものを、次の中から選べ。

ア　それみたことか　　イ　そうだったのだ　　ウ　お願いだ
エ　やはりね　　オ　そうだったらね

②「いつしか梅咲かなむ、来むとありしを、さやある」の傍線部「さ」が指し示す内容として、適切なものを次の中から選べ。

ア　満開の梅花を継母も作者も期待する
イ　梅の花が咲いたら継母が作者のもとに来る
ウ　梅の花が咲いたら作者が継母に会いに行く
エ　梅が咲く頃には作者はもう泣くのをやめる
オ　霜枯れた梅の木にも春がめぐってくる

③「舟漕ぐ空もなくてなむ、筑紫には帰り［　　］。」の空欄部分には「けり」を活用させた語が入ります。正しいものを次の中から選べ。

ア　けら　　イ　けり　　ウ　ける　　エ　けれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「さればこそ」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　そうはいっても　　イ　それゆえ
ウ　まったくだ　　エ　やはりそうだ

⑤「いかでかあらぬかたにかへり［　　］。」の空欄を補うのに、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　き　　イ　し　　ウ　ぬ　　エ　つ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講『今昔物語集』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

今は昔、朱雀院の女御と申すは、小野宮の太政大臣の御娘なり。その女御はかなく失せ給ひ①にけり。

しかるに、その女御の御許（もと）にa候ひける女房ありけり。名をば助（すけ）とぞ言ひける。かたち・有様よりはじめて、ア心ばへをかしかりければ、女御これをむつましき者にして、Aあはれに思したりければ、女房もうつくしく思ひかよはして過ぎける程に、常陸守が妻（め）になりて、その国にイ下りにけり。心苦しくウ思ひけれども、あながちに守がいざなひければ、国に下りても女御を恋ひ奉りけるに、かの女御に御覧ぜ②させ③むとて、いつくしき貝どもを拾ひて、箱一具に入れて持てエ上りたりけるに、女御失せ給ひにけりと聞きて、B泣きかなしむといへばおろかなりや。

しかれどもかひなくして、その貝一箱を、これ御誦経にオせさせ給へとて大き大臣にb奉りたりけるに、貝の中に、助かくなむ書き入れたりける、

　拾ひおきしきみもCなきさのうつせがひいまはいづれのうらによらまし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と。大き大臣これを見給ひて、涙にむせかへりて、泣く泣く御返しかくなむ、

たまくしげうらみうつせるうつせがひ　きみ(D)がかたみと拾ふばかりぞ

と。まことにそのころほひは、これを聞きて泣か(④)ぬ人無かりけりとなむ、語り伝へたる　とや(E)。

（『今昔物語集』より）

問一　波線部ア〜オの動作の主体として、最適なものを次の中からそれぞれ選べ（重複使用可）。

1　朱雀院　　2　女御　　3　太政大臣　　4　助　　5　常陸守

ア＝　　イ＝　　ウ＝　　エ＝　　オ＝

問二　二重傍線部ａ・ｂをそれぞれ現代語訳せよ。

ａ＝

ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部Ａ「あはれに思したりければ」の意味として最適なものを次の中から選べ。

1　女御は内心恋情を寄せていたので
2　女御は孤独な女房に同情していたので
3　女御は女房を養女にしていたので
4　女御は女房に目をかけていたので
5　女御は「助」という女房名を不憫に思っていたので

問四　傍線部Ｂ「泣きかなしむといへばおろかなりや」の現代語訳として最適なものを次の中から選べ。

1　泣き悲しむといってもそれはあまりにも大げさだ。
2　ことばでは言いようもないほどに泣き悲しむのであった。
3　今になって泣き悲しんでもそれは無駄なことであった。
4　仏教の立場からすれば人の死を悲しむのは愚かなことだった。
5　女房が身分の高い女御の死を悼むのは慎むべきことであった。

問五　傍線部Ｃ「なきさ」には「亡き・渚」の意味が重なっている。この表現技法を何と呼ぶか。漢字二字で答えよ。

問六　傍線部Ｄ「きみ」は「大き大臣」から見て誰を指すか。文中から一字で抜き出せ。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部①～④の助動詞の意味として、最適なものを次の中からそれぞれ選べ。

1　断定　　2　完了　　3　強意　　4　打消　　5　過去
6　使役　　7　尊敬　　8　婉曲　　9　意志　　10　推量

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問八　傍線部Ｅ「とや」の後ろに省略されている言葉を記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

①「見ならはぬ心地する…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　尊敬　イ　打消　ウ　意志　エ　完了　オ　自発

②次の傍線部の意味として、最も適当なものを後の中から選べ。

「心のどかにものなども聞こえむ」とて車をさし寄せて…

ア　婉曲　イ　断定　ウ　可能　エ　意志　オ　命令
カ　使役　キ　当然　ク　尊敬　ケ　伝聞　コ　自発

③「物思ひすがたにて出でにけり。」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　推量　イ　使役　ウ　断定　エ　過去　オ　完了　カ　尊敬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　次の空欄に入れる語句として、最も適当なものを後の中から選べ。

「たかくともなににかはせむくれ竹のひと夜ふたよのあだのふしをば」の和歌にある「よ」は竹の節(よ)の意味と同時に同音の「夜」の意味をも持つ。この技法を［　　］という。

ア　掛詞　　イ　縁語　　ウ　枕詞　　エ　引歌　　オ　本歌取り

⑤　「あながちに手を摺(す)りて」とは、どういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　無理矢理に頼み込んで
イ　やかましく言い立てて
ウ　はなはだしく我慢して
エ　たいへん慌てて
オ　きちんと礼を尽くして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講『雲萍雑志』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ある人、予がもとに来たりて、絵に魂を入るると申すことは、いかやうなることをして画き侍れば、魂は入り候ふことぞと問ふ。予こたへて言ふ。すべて絵には限らず、何ごとにても実心を込めてさへいたさば、魂の入らずといふ物あるべからず。他のことはいざ知らず、絵に魂の入りたると思ふは、諸国にて種々名画も多かる中に、我が見し泉州堺に一国寺といふ精舎あり。この寺は千利休もしばらく居(ゐ)(1)られし時、物好きを尽くして、庭園、座敷五間ほどもあり。一間には檜一本を描けり。一間には臥したる鶴二十五羽ばかりを描きてあり。いづれも彩色ありて、古法眼元信の筆と言ひ伝へたり。そのかみ、この絵を画ける画師、この寺に寓居すること、三年ばかりの中に、何一つ画きたることなく、碁を好みて、ただそれのみ日毎の楽しみとして、あるはここかしこ遊び歩くに、はやく三年を経たり。(2)ひとたびだに筆を取りしこともなきは、いかにも心得ざる者かなと思ひて、ある時、住持の申されけるは、そのもと、画をもて一家をなせりと言ひながら、筆を取りたることもなく、囲碁にのみ年月を過ぐさするるはいかにや。我れ、衣食の費をいとふ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

にはあらねど、いづこへなりとも遊び給へ。愚老も所用ありて、京へ[a]のぼり、ことによりては一年も在京せむもはかりがたしと言ふに、かの画師聞きて、それこそいと名残惜しきことに候へ。さあらば、年来の恩謝に、何か少しの画を残し参らすべしとて、心構へのみにて、また、四、五日ほど経るに、住持は何を描くと見たくて侍れども、③たえて筆を取らず。ある夜、小坊主の住持が居間に夜更けて[b]来たり、ひそかに申すやう、かしこに行き給ひて、そと覗きて、画師のありさまを見給へと[c]ささやきけるに、やがて小坊主にいざなはれて、画師が居間を[d]うかがふに、明かり障子の腰板に身を寄せて、さまざまの姿を[e]変へつつ、寝起きするありさまを[f]見るより、小坊主を引き寄せ、こよかし。覗くべからず。はやく臥せよとて、その身も寝間に[g]入りたり。明くれば画師、④まだきに起き出で、一間なる障子に描くを見れば、みな臥したる鶴なり。⑤画勢不凡にして、丹青の妙言ふべからず。さあるに、またの夜はいかにと[h]うかがふに、前のごとく夜もすがら寝ずして、明けなばかくや画かむとやせむ、かくやあらまし、など、独りつぶやきつつして[i]臥しぬれば、住持も知らぬ顔にて過ぐししが、十日あまりにして、その鶴およそ二十四、五羽を描けり。またも夜更けて覗き見るに、こたびは肘を張り足を伸べ、手を口に当てつつ、鶴の臥したるさまを見て臥しけるに、夜明けて、かの画師がもとに住

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

持来たりて、けふ描き給へる鶴の姿は、かやうにやそめぬらむと、よべ覗き見たる姿のさまして見せければ、うちおどろき、禅師には我が描かむと[j]思ひ構へし心を、はやくも悟り給ふは、いかに知り給へるかと問ふに、いやとよ。昨夜そのもとの様子を、そとうかがひて[k]知りたりと言へば、(6)画師、それよりして、二枚は描かずして、杉戸の画に檜一樹を描きて出で立ちぬるとぞ。この檜を描きし後、東国へ下向の折から、東海道箱根の山中にて、檜の枝の心にかなひたるがありければ、東国へは下らずして、ふたたび泉州一国寺へ立ち越えしかば、住持見て大いにおどろき、東国へ行き給ふと聞きしに、またもや来られしは、いかなることにかと言ふに、さきに描きし檜の枝、一枝足らぬところあり。箱根にてその意を得たれば、わざわざ立ち戻りたりとて、一枝を画き添へ、いとまごひして出で去りぬとぞ。絵に魂を入るるといへるは、かかるたぐひと思ひぬと(7)言へば、ある人も感じて帰りぬ。

（『雲萍雑志』による）

〈注〉

古法眼元信　狩野元信

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）「られし」とあるが、この部分の文法的説明として最も適当なものを次の中から選べ。

1　動詞「居(ゐ)る」の活用語尾＋尊敬の助動詞「る」の未然形＋過去の助動詞「き」の連体形
2　動詞「居(ゐ)る」の活用語尾＋尊敬の助動詞「る」の連用形＋過去の助動詞「し」の連体形
3　動詞「居(ゐ)る」の活用語尾＋尊敬の助動詞「る」の已然形＋過去の助動詞「き」の連体形
4　尊敬の助動詞「る」の未然形＋完了の助動詞「り」の未然形＋過去の助動詞「き」の連体形
5　尊敬の助動詞「る」の連用形＋完了の助動詞「り」の連用形＋過去の助動詞「し」の連体形
6　尊敬の助動詞「る」の已然形＋可能の助動詞「る」の連用形＋過去の助動詞「き」の連体形
7　尊敬の助動詞「らる」の未然形＋過去の助動詞「き」の連体形
8　尊敬の助動詞「らる」の未然形＋過去の助動詞「し」の連体形
9　尊敬の助動詞「らる」の連用形＋過去の助動詞「き」の連体形

問二　傍線部（2）「ひとたびだに筆を取りしこともなき」とあるが、その内容の説明として最も適当なものを次の中から選べ。

1　一回だけ絵筆を手に取ったことがあるので、寺を追放されるような重大な事態にならずにすんだということ
2　寺の近隣を逍遙する絵画制作旅行においては、一回も絵筆を手に取ったことが無いということ
3　一度限りのチャンスであるということを覚悟しつつも、絵筆を手に取ることが無いであろうということ
4　一度の絵画制作旅行において、絵筆を取ることができなかったスランプを見事に克服し事無きを得たということ
5　せめて一回でも絵筆を手に取ることがあってしかるべきなのに、一度も手に取ったことが無いということ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　二重傍線部ａ～ｋの動作の主体は、誰の動作なのかによって、三つに分けることができる。その分け方として最も適当なものを次の中から選べ。

1　〔a b c f〕・〔d e i j〕・〔g h k〕
2　〔a b c h〕・〔d e i〕・〔f g j k〕
3　〔a b c k〕・〔d e g j〕・〔f h i〕
4　〔a c e k〕・〔d f g h〕・〔b i j〕
5　〔a c f g h〕・〔d k〕・〔b e i j〕
6　〔a c g h k〕・〔d e f〕・〔b i j〕
7　〔a d e i k〕・〔c f g h〕・〔b j〕
8　〔a d f g h k〕・〔e i j〕・〔b c〕
9　〔a d g i k〕・〔c e h j〕・〔b f〕

問四　傍線部（３）「たえて筆を取らず」を十字以内で現代語に改めよ。

問五　傍線部（４）「まだきに」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

1　きっぱりと
2　まだ眠いのにもかかわらず
3　朝早くに
4　無理をして
5　まだ気にかかることがあるのだが

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部（5）「画勢不凡にして、丹青の妙言ふべからず」とあるが、その内容の説明として最も適当なものを次の中から選べ。

1　筆の運びには勢いがあるのだがありきたりな技巧に終止しており、絵の色づかいも奇妙であり言及を避けたい
2　絵画をめぐる当時の一大勢力に属している力量は並々ならぬものがあるのだが、色づかいのバランスには欠点がある
3　絵筆を動かす勢いには素晴らしい技巧が看取され、また、丹誠を込めて描いたその姿勢にも素晴らしさがある
4　筆の運びや絵全体の力強さには並々ならぬものがあり、色づかいの素晴らしさも筆舌に尽くしがたい
5　時勢に乗る流派に属している腕前は絶品であり、また、丹精を凝らして描いたその技術は絶賛されるべきである

問七　傍線部（6）「画師」とあるが、「画師」がその後に取った行動の説明として最も適当なものを次の中から選べ。

1　鶴の絵は新たには描かず、檜を一本描いて泉州一国寺から立ち去ったが、箱根の山中にて檜が大きく成長していることに感動し、一国寺で描いた檜の絵は枝一本分の高さが不足していると思い、一国寺まで引き返し枝一本を画き足した。画き足した後も、自分の行為に対して自己批評を加えることを忘れず、惑いながらも立ち去った。
2　鶴の絵を描くことは諦め、檜一本の絵を集中して描くことで流派一番の出世を遂げることができた。後日、箱根の山中である檜の枝の様子を見て、過去に描いた檜の絵の枝には描写の技巧が足りなかったことに気付き、泉州一国寺にて最高の技術・技巧で枝を一本画き足した。別れ際、寺の人々からたくさんの餞別をもらった。
3　鶴の絵を描くことはしないで、今度は檜を一本描いて泉州一国寺を出立したのだが、箱根の山中にて檜の枝が繁茂していることに感心して、一国寺に描き残した檜の絵には枝の数が足りなかったことに不安を覚え、わざわざ泉州一国寺まで引き返して無事に一本を足して描いた。とても満足して山中で覚えた不安を取り去った。
4　鶴の絵はさらには描かずに、とりあえず檜を一本描いて逃げるようにして泉州一国寺を去った。しかし、箱根の山中で檜を見て、おざなりに檜の絵を描いてしまったことに罪悪感を覚え、一国寺まで引き返し枝一本を画き足した。ところが、過去の罪悪感は強く、とてもまごつきながら、ふたたび逃げるようにして立ち去った。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

５　鶴の絵はもう描かないで、檜を一本描いて泉州一国寺を後にした。しかし、道中の箱根の山中である檜の枝ぶりを見て、一国寺に描き残した檜の絵を納得する作品へと仕上げるにはまだ不足する部分があることを悟った。そこで、わざわざ泉州一国寺まで引き返して無事に描き切り、別れを告げてから立ち去った。

問八　傍線部（７）「言へ」とあるが、この発話の最初の五字をそのままの形で抜き出して記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

①「やがて」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　とうとう　イ　ひっそりと　ウ　きっぱりと　エ　うちひしがれて　オ　そのますぐに

②「候ひしを、…」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　推量　イ　使役　ウ　断定　エ　過去　オ　完了　カ　尊敬

③「たえて答(いら)へもなくて寝たるさましたり。」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　係助詞　イ　動詞　ウ　間投助詞　エ　副詞　オ　副助詞

④「さらにそのほかのものも食はずありければ、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ますます　イ　まったく　ウ　たいてい　エ　ふつうは　オ　ほとんど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　次の「たまふ」に関する説明文の空欄に入る最も適当なものを、それぞれ後の中から選べ。

「たまふ」は、下二段活用の場合は［A］の意味となり、「思ふ」「見る」「聞く」に続く［B］としての用法にほぼ限られ、［C］に集中して用いられる。

ア　謙譲　　イ　尊敬　　ウ　補助動詞　　エ　会話文　　オ　地の文

A＝　　B＝　　C＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講『俊頼髄脳』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

わすれ草我が下紐につけたれど鬼のしこ草ことにしありけり

わすれ草かきもしみみに植ゑたれど鬼のしこ草なほおひにけり

鬼のしこ草といへ①るは、むかし、人の親、子を二人もたりけり。親うせにけ②るのち、恋ひ悲しぶこと、年をふれどもわすらるることなし。むかしは、うせたる人をば、塚にをさめければ、恋しきたびに、あにをとと、Aうち具しつつ、かの塚のもとにゆきむかひて、涙をながして、我が身にあるうれへをも嘆きをも、生きた③る親などに向ひていはむやうに、いひつつ帰りけり。兄の男、年月つもりて、おほやけにつかへ、わたくしを顧るにも、たへがたき事どもありて、思ひけるやう、「ただにては、思ひなぐさむべきやうもなし。萱草（わすれぐさ）といふ草こそ、人の思ひをばわすらかすなれ」とて、萱草を、その塚のほとりに植ゑつ。そののち、弟つねにきて、「れいの御墓へやBまゐる」とさそひけれども、さはりがちになりて、具せずのみなりにけり。この弟の男、いと憂しと思ひて、この人を恋ひ申すにこそかかりて、日をくらし、夜をあかし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

つれば、「我はわすれ申さじ」とて、「紫苑（しをん）といへる草こそ、心におぼゆ④る事はわすられざなれ」とて、紫苑を、塚のほとりに植ゑてみければ、いよいよわするCる事なくて、日をへてしあるきけるを見て、塚のうちに声ありて、「我は、その親のかばねをまもる鬼なり。ねがはくはおそるる事なかれ。君をまもらむと思ふ」と言ひければ、おそりながら聞き居りければ、君は親に孝ある事、年月を送れども、かはる事なし。兄のぬしは、おなじく恋ひ悲しみて見えしかど、思ひわすれ草を植ゑて、そのD<u>しるし</u>を得たり。E<u>そこ</u>は、紫苑を植ゑて、またそのしるしを得たり。心ざしねんごろにして、あはれぶ所すくなからず。我、鬼のかたちを得たれども、物をあはれぶ心あり。また、日のうちの事を、さとる事あり。見えむ所あらば、夢をもちて示さむF<u>と言ひて</u>、声やみ、また、そののち、日のうちにあるべき事を、夢に見る事おこたりなし。これを聞けば、紫苑をば、［G］事あらむ人は、植ゑて常に見るべきなり。［H］事あらむ人は、植うべからぬ草なり。されば、「万葉集にも、萱草をば、しこの草とは書け⑤るなり」とぞ人申しける。

（『俊頼髄脳』より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部Ａ「うち具しつつ」の意味として最も適当なものを次のア～オから選べ。

ア　準備を整えながら
イ　心の内を話しながら
ウ　供え物を持ちながら
エ　連れ添いながら
オ　ともに暮らしながら

問二　傍線部Ｂ「まゐる」の敬意の対象として最も適当なものを次のア～オから選べ。

ア　親　イ　兄　ウ　弟　エ　鬼　オ　おほやけ

問三　傍線部Ｃ「る」と文法上同じ働きのものを問題文中の波傍線部①～⑤から選べ。

問四　傍線部Ｄ「しるし」の意味として最も適当なものを次のア～オから選べ。

ア　証拠　イ　効果　ウ　合図　エ　是非　オ　病気

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部Ｅ「そこ」が指すものとして最も適当なものを次のア～オから選べ。

ア　親　イ　兄　ウ　弟　エ　塚　オ　夢

問六　傍線部Ｆ「と言ひて」とあるが、この発言はどこから始まるものか。最も適当なものを次のア～オから選べ。

ア　おそりながら聞き居りければ
イ　君は親に孝ある事
ウ　兄のぬしは、おなじく恋ひ悲しみて見えしかど
エ　我、鬼のかたちを得たれども
オ　夢をもちて示さむ

問七　空欄 Ｇ と Ｈ に入る最も適当な語句の組み合わせを次のア～オから選べ。

ア　Ｇ　うれしき　Ｈ　嘆く
イ　Ｇ　かなしき　Ｈ　喜ぶ
ウ　Ｇ　たのしき　Ｈ　失ふ
エ　Ｇ　はかなき　Ｈ　忍ぶ
オ　Ｇ　ゆゆしき　Ｈ　急ぐ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　この文章の内容に合致しないものを次のア～オから二つ選べ。

ア　兄のほうは宮仕えに差し障りが生じ、家の中でも耐え難いことがおこってしまい、塚のそばに萱草を植えた。
イ　弟のほうは、兄がたびたび都合が悪く親の墓参りに行けなくなってしまったのを非常に不本意に思った。
ウ　弟が紫苑の草を塚に植えたのは、それが心に刻んだことを忘れさせない草だからであった。
エ　塚の内から鬼の声が聞こえてきて、自分は親の屍を守護する鬼であり、怖がる必要はないと言った。
オ　弟は、その日のうちに行なうべき事を鬼から夢で欠かさず告げられるようになった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①「そこたちの事」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　出立するということ　　イ　あなた方のこと　　ウ　馬二疋を借りたいということ
エ　あれやこれやの事情　　オ　ここで起きた出来事

②「中頃、広言・康頼こそ、具して歌ふ者にてあれ。」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　伴って　　イ　喜んで　　ウ　いやいや　　エ　真面目に

③「頼みきてひさしくなりぬ住吉のまづこのたびのしるし見せなむ」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

注　住吉…住吉明神。住吉大社は和泉国にある。

ア　霊験を見せてほしいと神に願っている。
イ　祟り（たた）の理由を教えてほしいと頼んでいる。
ウ　自分の信仰の証拠が見せられないことを嘆いている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 文中の空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な語を、それぞれ後の中から選べ。ただし、いずれについても、空欄の箇所にふさわしく活用させた語形が入るものとする。また、同じ記号を二度用いてはならない。

Ａされて起きたるに、「あなはかなや。〈中略〉あまた子どもありといへども、をのれ一人に三千の寵愛も、みな尽くしたる心地を思ふ。笑めるを見ては、百(もも)の媚(こび)ありと思ふ。Ｂたる気色を見ては、ともに嘆く心ありて十五年の春秋を送り迎へて…」

ア　うれふ　　イ　おこたる　　ウ　おどろく　　エ　わかる

Ａ＝　　　　Ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講『中務内侍日記』

次の文章は、春宮（とうぐう）（皇太子。のちの伏見天皇）に仕えていた作者が、春宮と左中将（京極為兼）との間にあった出来事を回想したものである。よく読んで、後の問に答えなさい。

世に経れば、何となく忘れぬふしぶしも多く、袖もぬれぬべきことわりも知らるるこそ、①かはゆくおぼゆれど、ことに弘安六年四月十九日、例の、*嵯峨殿の御幸（ごかう）なりて還御なる。御夜の後、春宮の御方、*土御門の少将ばかり御供にて、院の御方ざまに忍びて御覧ぜらるる。南殿の花橘（たちばな）盛りなる頃なれば、香を懐かしむ郭公（ほととぎす）もやと待たせおはしますに、②心づくしの一声もあかず恨めし。

その頃、左中将、何事にかありけん、こもりて久しく参らざりけるに、有明の空に鳴きぬる一声を、寝覚にや A聞くらんなど、かたじけなくも B思し召し出づる（い）は、夢の中にも通ふらんをと C思ひやらるるに、

思ひやるねざめやいかに時鳥（ほととぎす）鳴きて過ぎぬる有明のそら

と御気色あれば、*内侍殿、たどたどしき程の有明の光に書きて、花橘に付けられたり。

*さるべき御使ひもなくて、明けぬ［ａ］べしば、土御門の少将、人も具せずただ一人、馬にて行きぬ。手づから馬の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

口をひきて門をたたくに、③とみにも開けず。空は明け方になるもあさましくをかし。門を開けぬるに、Ⅰ思ひよらずあきれたりけんもことわりなり。さらぬ情けだに、折から物はうれしきに、④かしこき御情けも深く、*色をも香をもと思し召し出づるも、御使ひの嬉しさはげにいかなりけん。*同じ類ひならん身は、Ⅱげにいかでかうらやましからざらん。ありがたき面目、生ける身の思ひ出でとぞ、よそに思ひ知られて侍り［ｂ　き］。ほのぼのと明くるほどにぞ、帰り参りたる。

宮の中鳴きて過ぎける時鳥待つ宿からは今もつれなし

（『中務内侍日記』による）

＊嵯峨殿の御幸なりて還御なる＝院（御深草院。春宮の父）が離宮の嵯峨殿への御幸からお帰りになる。
＊土御門の少将＝源具顕。
＊内侍殿＝女房の名。
＊さるべき御使ひもなくて＝しかるべき使いの者もいなくて。
＊色をも香をも＝『古今和歌集』春上の紀友則の歌「君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る」を踏まえた表現。
＊同じ類ひならん身は＝同じく春宮にお仕えしている同僚としては。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線①「かはゆく」、③「とみに」の語の意味として、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①「かはゆく」
ア　愛らしく　イ　趣き深く　ウ　恥ずかしく
エ　懐かしく　オ　いじらしく

③「とみに」
ア　すぐに　イ　やたらに　ウ　やはり
エ　用心して　オ　滅多に

問二　傍線②「心づくしの一声もあかず恨めし」、④「かしこき御情けも深く」の説明として、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

②「心づくしの一声もあかず恨めし」
ア　春宮が丁寧に言葉を選んで一声かけたのに、院が部屋を開けてくれなかったのが恨めしいということ。
イ　ほとどきすが素晴らしい声で一声鳴いたのに、院が顔を出してくれなかったのが恨めしいということ。
ウ　さんざん待ったのに、ほとどきすが一声しか鳴かなかったので、物足りずに恨めしいということ。
エ　ほととぎすが鳴くのを心を砕いて期待していたのに、一声も鳴かなかったのが不満で恨めしいということ。
オ　土御門の少将が気をもんで一声かけたのに、春宮の機嫌が直らなかったのが恨めしいということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「かしこき御情けも深く」

ア　左中将の出仕がない理由を深く見抜いた春宮の判断が、とても賢明なものであったということ。
イ　宿にこもってしまっている左中将に対しての春宮のお気遣いが、畏れ多いほどに深いということ。
ウ　なぜ土御門の少将がやって来たのかを、即座に理解した左中将の洞察力が深いということ。
エ　明け方なのに、土御門の少将を招き入れた院の懐の深さが、もったいないほどであるということ。
オ　ほととぎすを愛する左中将への院の親愛の念が、驚くほどに深いものであるということ。

問三　波線A「聞く」、B「思し召し出づる」、C「思ひやら」について、それぞれ誰の行為か、次のア～カの中から選べ。

ア　院　　イ　春宮の御方　　ウ　土御門の少将
エ　左中将　　オ　内侍殿　　カ　作者

A＝　　B＝　　C＝

問四　傍線Ⅰ「思ひよらずあきれたりけんもことわりなり」、傍線Ⅱ「げにいかでかうらやましからざらん」をそれぞれ現代語訳しなさい。

Ⅰ＝

Ⅱ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　[a]・[b]には、助動詞「べし」、助動詞「き」の終止形をそれぞれ仮に記している。どのような形で入るのがふさわしいか、正しい活用形に改めたものを答えなさい。

a＝

b＝

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①　「とみのこととて」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　先に決まっていた予定があるので　　イ　都見物に出かけるので
ウ　遺産相続に関する相談があるので　　エ　火急の用事があるので
オ　跡目選びの問題があるので

②　「ことわりに」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　理屈っぽいことだと　　イ　すばらしいことだと
ウ　言い訳がましいことだと　　エ　もっともなことだと
オ　謝罪すべきことだと

③　「飽かざりし名残をあそばして」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見飽きることのない面影を胸に思い浮かべなさって
イ　満ち足りないままに別れた思いをお書きになって
ウ　聞き飽きることのない琴の余韻に浸っておいでになって

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「ありがたく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　めったにないことと
イ　風流なことと
ウ　ありがちなことと
エ　もったいないことと
オ　感謝すべきことと

⑤「ことわりなり」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あり得ることだ
イ　当然だ
ウ　すばらしいことだ
エ　礼儀だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講『大鏡』

次の文章は、『大鏡』の一節で、太政大臣藤原為光の二人の男君のことを語る部分である。よく読んで、後の問いに答えなさい。

男君、[注1]太郎は、左衛門督（さゑもんのかみ）と聞こえさせし。悪心起こして失せ給ひにしありさまは、いとあさましかりしことぞかし。人に越えられ、からい目見ることは、さのみこそおはしあるわざなるを、さるべきにこそはありけめ。同じ[注2]宰相におはすれど、[注3]弟殿には人柄・世おぼえの劣り給へ[a]ればにや、中納言空（あ）く際に、「我もならむ」など思して、わざと①対面し給ひて、「この度（たび）の中納言、望み申し給ふな。ここに申し侍るべきなり」と聞こえ給ひければ、「いかでか、殿の御前（さき）にはまかりなり侍らむ。まして、かく仰せられむには、あるべきことならず」と②申し給ひければ、[A]御心行きて、しか思して、いみじう申し給ふに及ばぬほどにやおはしけむ、[注4]入道殿、この弟殿に、「そこは申さ[b]れぬか」とのたまはせければ、「左衛門督の申さるれば、[B]いかがは」と、渋々げに申し給ひけるに、「かの左衛門督は、えなられじ。また、そこに避（さ）られば、異人（ことひと）こそはなるべかなれ」と③のたまはせければ、「かの左衛門督まかりなるまじくは、よしなし、なし給（た）ぶべきなり」と④申し給へば、「またかくあらむには、異人はいかでか」とて、[C]なり給ひにしを、「いかで、我に向か

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ひて、あるまじきよしを謀(はか)りけるぞ」と⑤思すに、いと悪心を起こして、除目(ぢもく)[注5]の朝(あした)より、手を強く握りて、「斉信・道長に、我[注6]はばまれぬるぞ」と言ひ入りて、D物もつゆ参らで、うつ臥しうつ臥し給へるほどに、病づきて、七日といふに失せ給ひにしは。握り給ひたりける指(および)は、あまり強くて、上にこそ通りて出でて侍りけれ。

（『大鏡』太政大臣為光による）

（注）
1　太郎――為光の長男誠信。
2　宰相――参議の唐名で、上達部（公卿）の一員。
3　弟殿――為光の次男斉信。
4　入道殿――藤原道長。
5　除目の朝――中納言などを任命する儀式の翌朝。
6　我はばまれぬるぞ――私はだまされたのだ。

問一　点線①～⑤は、誰の動作か。次の中からそれぞれ選べ。

ア　為光　　イ　誠信　　ウ　斉信　　エ　道長

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線Ａ「御心行きて」の部分を現代語訳しなさい。

問三　傍線Ｂ「いかがは」の下に省略された内容を含めた意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　弟の私が中納言になるわけにはいきません。
イ　弟の私がぜひ中納言になりたいと思います。
ウ　兄上に中納言になってもらいたいと思います。
エ　兄上が中納言になるのはおかしいと思います。
オ　兄上がなぜ中納言になろうと思うのでしょう。

問四　傍線Ｃ「なり給ひにしを」は、（ア）誰が（イ）何になったことをいうか。

（ア）＝

（イ）＝

問五　傍線Ｄ「物もつゆ参らで」の部分を現代語訳しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　波線（二か所）の「悪心」とは、どういう意味か。「人を□心」の空欄に入る最も適切な言葉を、本文の内容に即して、三字以内で答えなさい。

問七　二重傍線ａ・ｂの助動詞について、その（ア）意味と（イ）終止形と（ウ）文中での活用形をそれぞれ答えなさい。

ａ　（ア）＝　　（イ）＝　　（ウ）＝

ｂ　（ア）＝　　（イ）＝　　（ウ）＝

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　復習問題

①「つゆも寝られず」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　結局お休みにならず
イ　自然に寝ずにはいられず
ウ　少しも寝られず
エ　予想通り寝ることができず

②次の波線部ａ・ｂの助動詞の意味として、最も適当なものを後の中からそれぞれ一つ選べ。

上（かみ）のその道を得たまへ れ（a）ば、かくて、このたび撰ば れ（b）たるをば、新古今といふなり。

ア　完了　　イ　使役　　ウ　尊敬　　エ　自発　　オ　婉曲

ａ＝　　　　ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「さてもあさましかりしことかな」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　それはそれは、恥ずかしいことでありましたなぁ
イ　それにしても、あまりのことで驚きましたなぁ
ウ　そうして今度は、後悔することになりましたなぁ
エ　そうはいっても、がっかりするような出来事でしたなぁ
オ　そうですね、思わずぞっとしましたなぁ

④「いとどしく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あまりにも
イ　そのまま
ウ　性悪にも
エ　何度も
オ　ますます

⑤人物伝中心に歴史を語る『大鏡』の中で、派生的なエピソードの語りを受け持つ人物は誰か、次の中から一つ選べ。

ア　夏山繁樹　　イ　侍　　ウ　翁　　エ　大宅世継　　オ　嫗

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　『宇治拾遺物語』

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、信濃国に法師ありけり。さる田舎にて法師になりにければ、まだ受戒もせで、いかで京に上りて東大寺といふところにて受戒せんと思ひて、とかくして上りて受戒してけり。さて、もとの国へ帰らんと思ひけれども、「よしなし、さる無仏世界のやうなる所に帰ら［Ⅰ］。ここにゐなん」と思ふ心つきて、東大寺の仏の御前に候ひて、いづくにか行ひしてのどやかに住みぬべき所あると、よろづの所を見回しけるに、①坤（ひつじさる）のかたにあたりて山かすかに見ゆ。そこに行ひて住まんと思ひ行きて、山の中に②えもいはず行ひて過ぐすほどに、すゞろに小さやかなる厨子仏を行ひ出したり。③毘沙門にてぞおはしましける。

そこに小さき堂を建てて据ゑ奉りて、えもいはず行ひて年月を経るほどに、この山の麓にいみじき下種（げす）*徳人ありけり。そこに聖の*鉢は常に飛び行きつゝ、物は入れて来けり。大きなる校倉のあるを開けて物取りいだすほどに、この鉢飛びて例の物こひに来たりけるを、「例の鉢来にたり。④ゆゝしく*ふくつけき鉢よ」とて取りて倉の隅に投げ置きて、とみに物

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

も入れざりければ、鉢は待ちゐたりけるほどに、物どもしたゝめ果ててこの鉢を忘れて物も入れず取りもいださで、倉の戸をさして立ち帰りぬるほどに、とばかりありてこの倉(a)すゞろにゆさ〳〵とゆるぐ。「いかに〳〵」と見騒ぐほどに、ゆるぎ〳〵て土より一尺ばかりゆるぎあがるときに、「こはいかなることぞ」と怪しがりて騒ぐ。「まこと〳〵、ありつる鉢を忘れて取り出でずなりぬる、それがしわざにや」などいふほどに、この鉢倉よりもり出でて、この鉢に倉乗りてたゞ上りに(b)空ざまに一、二丈ばかり上る。さて飛び行くほどに、人々見のゝしり、あさみ騒ぎあひたり。倉の主もさらにすべきやうもなければ、「この倉の［Ⅱ］ところを見ん」とて、尻に立ちて行く。そのわたりの人々もみな走りけり。さて見れば、やう〳〵飛びて、河内国に、この聖の行ふ山の中に飛び行きて、聖の坊のかたはらにどうと落ちぬ。

いとゞあさましく思ひて、Aさりとてあるべきならねば、この倉主、聖のもとに寄りて申すやう、「かゝる(c)あさましきことなん候ふ。この鉢の常にまうで来れば物入れつゝ参らするを、けふ紛らはしく候ひつるほどに、倉にうち置きて忘れて取りも出ださで錠をBさして候ひければ、この倉たゞゆるぎにゆるぎて、こゝになん飛びてまうで来て落ちて候ふ。この倉返し給ひ候はん」と申すときに、「まことに怪しきことなれ［Ⅲ］、飛びて来にければ倉はえ返し取らせじ。ここ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

にかやうの物もなきに、おのづから物をも置かんによし。中ならん物は^C^さながら取れ」とのたまへば、主のいふやう、「いかにしてか、たちまちに運び取り返さん。千石積みて候ふなり」といへば、「それはいと［Ⅳ］ことなり。確かに我運びて取らせん」とて、この鉢に一俵を入れて飛ばすれば、雁などの続きたるやうに残りの俵ども続きたる、群雀（むらすずめ）などのやうに飛び続きたるを見るに、いとゞあさましく尊ければ、「⑥しばし、みななつかはしそ。米二、三百は留めてつかはせ給へ」といへば、「あるまじきことなり。それこゝに置きては何にかはせん」といへば、「^D^さらば、たゞ使はせ給ふばかり、十、二十をも奉らん」といへば、「^E^さまでも⑦いるべきことのあらばこそ」とて、主の家に確かにみな落ちゐにけり。

（『宇治拾遺物語』巻八「信濃国の聖の事」より）

（注）
＊徳人…裕福な人。
＊鉢…托鉢に用いる鉢。
＊ふくつけき…貪欲な、強欲な。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　空欄Ⅰに入る語として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　じ　　ロ　ばや　　ハ　まし　　ニ　るれ　　ホ　ん

問二　傍線部①「坤のかた」が表している方角を次のイ〜へから一つ選べ。

イ　南西　　ロ　南東　　ハ　西南西
ニ　東南東　　ホ　南南西　　へ　南南東

問三　傍線部②「えもいはず行ひて過ぐすほどに」はこの「法師」のどのような様子を表しているか、最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　一心不乱に厳しい修行にはげむありさま
ロ　自然と交わりのんびりと過ごすありさま
ハ　誰とも言葉を交わさず修行するありさま
ニ　人のいない深山で孤独に耐えるありさま
ホ　山の中を隈無く無言で歩き回るありさま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部③「毘沙門にてぞおはしましける」の現代語訳として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　毘沙門天でいらっしゃった　　ロ　毘沙門天でございました
ハ　毘沙門においでになった　　ニ　毘沙門のところに現れた
ホ　毘沙門のところにございました

問五　傍線部④「ゆゝしくふくつけき鉢よ」は「徳人」のどのような気持ちを表しているか、最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　哀惜　　ロ　畏怖　　ハ　悔恨　　ニ　寛容　　ホ　立腹

問六　傍線部（a）「すゞろに」、（b）「空ざまに」、（c）「あさましき」の意味として最も適当なものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選べ。

（a）「すゞろに」
イ　思いがけず　　ロ　素早く　　ハ　激しく
ニ　不思議にも　　ホ　ゆっくりと

（b）「空ざまに」
イ　空っぽの様子で　　ロ　空気のように　　ハ　空に着くまで
ニ　空に向かって　　ホ　何もなかったように

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（c）「あさましき」

イ　呆れ果てた　　ロ　あさはかな　　ハ　ちょっとした

ニ　不吉な　　ホ　欲深い

問七　空欄Ⅱに入る語句として最も適当なものを次のイ～ヘから一つ選べ。

イ　行きけん　　ロ　行きし　　ハ　行かん

ニ　来たる　　ホ　来にける　　ヘ　来ざる

問八　傍線部⑤「さて」の「さ」と同じ機能を持つ「さ」が使われていない文節を問題文の波線部A～Eから一つ選べ。

A　さりとて　　B　さして　　C　さながら　　D　さらば　　E　さまでも

問九　空欄Ⅲに入る語として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　と　　ロ　ど　　ハ　ば　　ニ　ばか　　ホ　り

問十　空欄Ⅳに入る語として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　かしこき　　ロ　さうざうしき　　ハ　しるき

ニ　やすき　　ホ　ゆかしき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　傍線部⑥「しばし、みななつかはしそ」の現代語訳として最も適当なものを次のイ～へから一つ選べ。

イ　しばらくの間、すべてでなくてもお与えください
ロ　しばらくの間、全部は差し上げないでおきましょう
ハ　しばらくの間、みんな送り返してしまいましょう
ニ　待ってください、すべてお与えしてはいけません
ホ　待ってください、みんな差し上げてもかまいません
へ　待ってください、全部お返しにならないでください

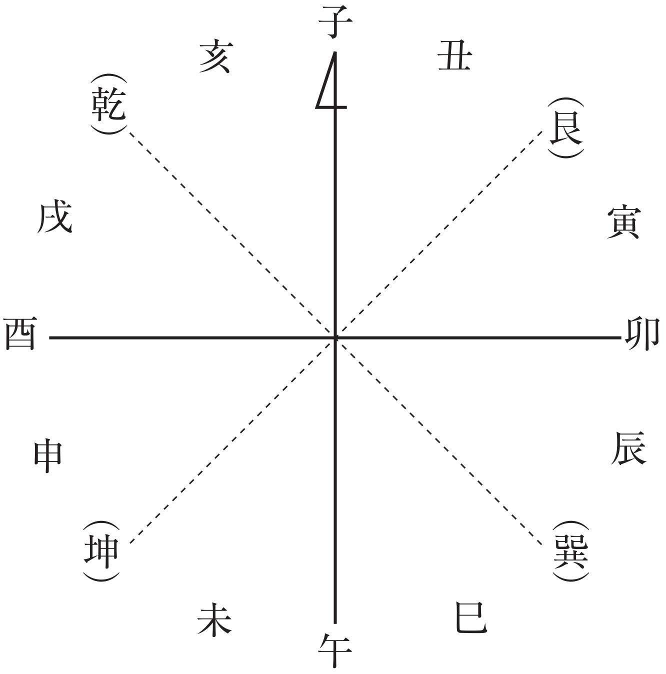
問十二　傍線部⑦「いるべきことのあらばこそ」とほぼ同じ意味になる表現を次のイ～ホから一つ選べ。

イ　いるべきことあらばや
ロ　いるべきことかは
ハ　いるべきことこそあなれ
ニ　いるべきことなせそ
ホ　いるべきこともがな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「方角」



「時刻」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　復習問題

①「巳の時」の時刻は、現在の何時にあたるか、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　午前七時ごろ　イ　午前十時ごろ　ウ　午後一時ごろ
エ　午後八時ごろ　オ　午後十時ごろ

②「申の時」とあるが何時頃か。正しいものを、次の中から選べ。

ア　午前八時頃　イ　午前十時頃　ウ　正午頃
エ　午後二時頃　オ　午後四時頃

③「午刻」は現在の何時ごろですか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　昼の十二時ごろ　イ　昼の三時ごろ　ウ　夜の二時ごろ　エ　夜の八時ごろ

④「酉の刻」とあるが、これはいつごろを指すのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午後二時ごろ　イ　午後四時ごろ　ウ　午後六時ごろ
エ　午後八時ごろ　オ　午後十時ごろ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「子の方」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　北の方　イ　東の方　ウ　南の方　エ　西の方

⑥「ののしる」の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　尋ねる　イ　大声を出す　ウ　催促する　エ　つめよる　オ　罵詈雑言を浴びせる

⑦「さうざうしく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　しらじらしく　イ　もの足りなく　ウ　見苦しく
エ　腹立たしく　オ　わざとらしく

⑧「その夜は起きあがるべきかは。」の傍線部の文法的な意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　詠嘆　イ　婉曲　ウ　強調　エ　反語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講『新花つみ』

次の文章は与謝蕪村の記した『新花つみ』の一話である。これを読んで、後の問いに答えよ。

常陸の国、下館（しもだて）といふところに、中村兵左衛門といへる有り。故（注）夜半亭の門人にて俳諧をこのみ、風篁（ふうくわう）とよぶ。ならびなき福者にて、家居[1]つきづきしく、方弌町ばかりにかまへ、前栽後園には奇石異木をあつめ、泉をひき、鳥をはなち、（注）仮山の致景、自然のながめをつくせり。国の守（かみ）も、をりをり入りおはして、又なき長者にて有りけり。妻は阿満（おみつ）といひて、藤井某といへる大賈の女にて、和歌のみち・[2]いと竹のわざにもうとからず。こころざま優にやさしき女也けり。

さばかりの豪族なりけるに、いつしか家おとろへ、よろづものさびしく、たち入る人もおのづからうとうとしくなりぬ。

その家のかくおとろへんとするはじめ、いろいろの[3]もつけ多かりけり。それが中に、いといと身のけだちておそろしきは、一とせの［A］、春待つ料に、もちひいついつよりも多くねりて、大いなる桶にいくらともなく蔵（をさ）め置きぬ。そのもちひ夜ごとにへり行きければ、何もののぬすみ去りけるにやと、うたがひつつ、桶ごとに（注）門扇のごとき板を覆ひて、そのうへにしたたかなる盤石をのせ置きたり。つとめてのあさ、こころにくみて打ちひらき見るに、覆ひはそのままに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

て有りつつ、もちひは半ば過ぎへりうせたり。その頃、あるじの風篁は、公けの事にあづかりて、(注)江府にありけり。されば妻の阿満、よろづ B 家をもりて、まゐりつかふるものまでにもなさけふかく、じひごころ有りければ、人みないとほしとなみだうちこぼすめる。

ある夜、春のまうけにいつくしききぬをたち縫ひて有りけるが、夜いたくふけにたれば、家子(けこ)どもはみなゆるしつ、ねぶらせたり。我ひとり一間に引きこもり、くまぐまかたがたとざし、つゆうかがふべき仮隙(かげき)もなくして、ともし火あきらかにかかげつつ、心しづかにもの[4]縫ひて有りけり。漏刻(ろうこく)声しただり、ややうしみつならんとおもふをりふし、老さらぼひたる狐のゆらゆらと尾を引きて、五つ六つうちつれだちて、ひざのもとを過ぎ行く。もとより妻戸・さうじ、かたくいましめあれば、いささかの(注)虚白だにあらねば、いづくより鑚(きり)入るべき。いとあやしくて、めかれもせず[5]まもりゐたるに、ひろ野などのさゆるものなきところをゆきかふさまにて、やがてかきけつごとく[6]出でさりぬ。阿満はさまでおどろしともおぼえず、はじめのごとく物縫うて有りけるとぞ。

あくる日かの家に[7]とぶらひて、「いかにや、あるじの帰り[8]給ふことのおそくて、よろづ心うくおぼさめ」など、とひ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なぐさめけるに、阿満いついつよりもかほばせうるはしく、のどやかにものうちかたり、「よべ、かくかくのけいありし」とつぐ。聞くさへえりさむく、すりよりて、「あなあさまし、さばかりのふしぎ有るを、いかに家子どもをもおどろかし9給はず、ひとりなどかたふべき。にげなくも剛におはしけるよ」といへば、「いやとよ、つゆおそろしきとも覚えず10侍りけり」とかたり聞こゆ。日ごろは窓うつ雨、荻ふく風のおとだにおそろしと、引きかづきおはすなるに、その夜のみ、さともおぼさざりけるとか、いといとふしぎなること也。

（注）
夜半亭…蕪村の俳諧の師匠で既に没していた早野巴人のこと。
仮山…庭の築山。
門扇…門扉、戸板。
江府…江戸。
虚白…ここでは「わずかの隙間」の意。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部１「つきづきし」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　仰々しく
ロ　毎月来客があり
ハ　しっかりとしていて
ニ　につかわしく
ホ　こぢんまりとしており

問二　傍線部２「いと竹のわざ」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　裁縫の技術
ロ　竹細工を作る技術
ハ　造園の技術
ニ　竹刀を使っての剣術
ホ　笛や三味線の演奏技術

問三　傍線部３「もつけ」とほぼ同じ意味で使われているひらがな二字の言葉を本文中から抜き出せ。

問四　空欄［A］に入るものとして、最も適当な語を次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　睦月　　ロ　卯月　　ハ　文月　　ニ　神無月　　ホ　師走

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　空欄 B に入るものとして、最も適当な語を次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　まめやかに
ロ　すずろに
ハ　かまびすしく
ニ　あさましく
ホ　おどろおどろしく

問六　傍線部４「縫ひて」、５「まもりゐたるに」、６「出でさりぬ」、７「とぶらひて」の主語を次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　風篁　　ロ　蕪村　　ハ　阿満　　ニ　狐　　ホ　家子ども

４＝　　５＝　　６＝　　７＝

問七　傍線部８「給ふ」、９「給は」、10「侍り」は、それぞれ誰から誰への敬意を表す語か。解答を次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　家子どもから阿満へ　　ロ　阿満から蕪村へ　　ハ　蕪村から阿満へ
ニ　蕪村から風篁へ　　ホ　阿満から狐へ

８＝　　９＝　　10＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　本文の内容と合うものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　中村家が、繁栄し始めた頃、いろいろとめでたいことが起きた。
ロ　中村家で、桶の中の餅が夜ごとに減少した事件は、あるじの留守中に起こった。
ハ　中村家で、桶の中の餅が半減する事件は、桶に重石を載せることで起きなくなった。
ニ　中村家で、阿満の膝元を五、六匹の狐が通り過ぎる姿は、使用人たちも目撃した。
ホ　阿満は、狐が現れた時には、不安で仕方がなく泣いていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「月の異名」

睦月（　　　　）
如月（　　　　）
弥生（　　　　）
→「　　」

卯月（うづき）
皐月（さつき）
水無月（　　　　）
→「　　」

文月（　　　　）
葉月（はづき）
長月（ながつき）
→「　　」

神無月（　　　　）
霜月（しもつき）
師走（しはす）
→「　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　復習問題

①　陰暦四月を意味する語として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　如月　　イ　長月　　ウ　睦月　　エ　水無月　　オ　卯月

②　「長月」とは何月か。次の中から正しいものを選べ。

ア　一月　　イ　四月　　ウ　七月　　エ　九月　　オ　十一月

③　「春の事ども取りいそぎ」とは、どういうことか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　新年の挨拶まわり　　イ　歳末の取り立て　　ウ　正月祝いの準備
エ　衣替えの準備　　オ　婚礼の準備

④　「糸竹」とあるが、これは何を指すか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　風流　　イ　自然　　ウ　季節　　エ　楽器　　オ　詩文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「かねていとほしかりつるに」の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　以前から望ましいと思っていたので。
イ　以前より立派になったと感じていたので。
ウ　かねてより困ったことだと思っていたので。
エ　ずっとひそかに恋しいと思っていたので。
オ　前から気の毒だと思っていたので。

⑥「おどろおどろしく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あきれ果てて　　イ　ものものしく
ウ　泥にまみれながら　　エ　びっくりした様子で

⑦「まめやかに聞こえたまへば」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　やさしげにたしなめなさるので　　イ　真剣に説得なさるので
ウ　優美に申し上げなさるので　　エ　意地悪に申し付けなさるので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講『あきぎり』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

大納言と北の方は、姫君を帝の后（きさき）にしたいと思って大切に養育していたが、大納言はふとした病で亡くなってしまった。

北の方、(1)<u>さまを変へたまひて</u>、「後の世をだに」と行なひたまふ中にも、ただこの姫君の御ことを明け暮れ思（おぼ）しつつ、「父君おはしまさ<u>ね</u>[ア]ば、＊雲居（くもゐ）の住まひも、(2)<u>はかばかしき</u>御後ろ見なければ、思ひ立つまじきを、さしも類（たぐひ）なき御ありさまを、さてや虚（むな）しく埋（うづ）もれ果てたまは<u>む</u>[イ]」と、(3)<u>行なひの妨げにもなりぬべく思し乱る</u>。

やうやう年月も過ぎ行けば、ありしにもあらず荒れ果てて、築地（ついぢ）なども崩れて、門なら<u>ぬ</u>[ウ]通ひ路もいと多し。秋も半ばになりぬれば、風の音、虫の声々もひまなきに、いつよりも月隈（くま）なきに、格子（かうし）なども下ろさ<u>で</u>[エ]、姫君、端近くながめたまひても、ただ父君の御こと思し忘るる時なく、月の光、風の音につけても、よろづもの悲しくて、御傍（そば）なる＊箏（さう）の琴を引き寄せて、少しかき鳴らしたまへり。

折りしも、宮の三位の中将と聞こゆる人おはしけり。花の色、月の光にも、この世は憂きものとのみ思ひたまひて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

夜もすがらいつもあくがれたまひて、よしある所は入りて、垣間見(かいまみ)たまへるに、思はず(オ)、箏の琴をゆるらかに*盤渉調(ばんしきでう)に弾き鳴らすを聞きたまふに、「(4)おしなべての爪音(つまおと)にはあらず。いかなる人なるらむ」と、ゆかしくて、築地の崩れより入りたまひて、ものの隈に立ち隠れて見たまへば、端近くながめけるとおぼえて、御簾(みす)なども少し巻き上げて、いとをかしげなる*若き人、二、三人ばかり見ゆるに、「いづれか琴弾く人」と見たまへども、この中には見えで、奥の方に聞こゆ。

月隈なく差し入りて、障(さは)りなく見ゆるに、「わづかに十四、五にや」と見えて、紛(まが)ふべくもなくいつくしげにて、月にもてはやされたる髪のかかり、手つきなどは、世の常の人とは見えず。顔は定かに見えねども、空をつくづくと目守(まも)りて、いみじうもの思へるさまなり。らうたげに、気高く見えたり。「(5)誰ばかりかこれほどならむ」と、あやなく御心もとどまりて、出(い)でたまふ心地もしたまはねば、なほ立ち聞きたまへば、御前なる人々、いとあはれなる物語して、故大納言殿の御ことなど語り出でて、「おはしましかば、かく心細きさまならましや」、「(6)今はいかなる方にも定まりたまひなむものを」などとうち泣きなどするに、いとどもよほされて姫君もいみじくながめ入りて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

もの思ふ涙に空はかきくれて我から月もおぼろにぞ見る

と、うち詠(なが)むともなきさま、げに類あらじと見えたり。

（『あきぎり』による）

＊雲居の住まひ＝宮中での暮らし。ここでは、帝の后として宮中に入ることをいう。
＊箏の琴＝十三本の絃(げん)を張った琴。
＊盤渉調＝雅楽の調子の一つ。
＊若き人＝姫君に仕える侍女。後出の「御前なる人々」も同じ。

問一　傍線（１）（２）（４）の意味として、最も適当なものを次のそれぞれのア～オの中から選べ。

（１）「さまを変へたまひて」
ア　身をお清めになって　　イ　部屋の模様替えをなさって
ウ　別の住まいにお移りになって　　エ　出家して尼姿におなりになって
オ　悲しみのためにおやせになって

（２）「はかばかしき」
ア　計算高い　　イ　ちょっとした　　ウ　親しみやすい
エ　たしなみがある　　オ　しっかりとした

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（4）「おしなべての」
ア　格別の　　　イ　心づくしの　　　ウ　流行遅れの
エ　ありきたりの　　　オ　思ったとおりの

問二　二重傍線ア～オの中には、一つだけ品詞の異なる語がある。その語を選べ。
ア　おはしまさねば
イ　埋もれ果てたまはむ
ウ　門ならぬ通ひ路
エ　下ろさで
オ　思はず

問三　傍線（3）「行なひの妨げにもなりぬべく思し乱る」を現代語訳せよ。

問四　傍線（5）「誰ばかりかこれほどならむ」は、宮の三位の中将の思いであるが、それを説明したものとして、最も適当なものを次のア～オの中から選べ。
ア　姫君の困窮ぶりに、誰のせいなのかと、憤慨している
イ　姫君の姿を見て、並ぶ者のない美しさだと、感嘆している
ウ　姫君と比較できそうな他の女性たちのことを思い浮かべている
エ　姫君の住まいは世俗を厭（いと）う自分にとって理想的だと、称賛している
オ　姫君の表情を見て、誰かを慕っているのだろうと、疑わしく思っている

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線（6）「今はいかなる方にも定まりたまひなむものを」の解釈として、最も適当なものを次のア～オの中から選べ。

ア　今では、どのようなことが起ころうとも、私たちが姫君をお守りするしかありませんね
イ　今ごろは、どのようなお相手であるにせよ、姫君はきっと結婚なさっていらっしゃるでしょうに
ウ　今ごろになって、どんなに悔やんでも仕方がないのですから、私たちはもう悲しむのはやめましょう
エ　今に、どれほどすばらしい相手が現れるかわからないのですから、姫君は心配なさらないでくださいな
オ　今となっては、どのようなことをしてでも、私たちが姫君の結婚相手をお世話するしかないのでしょうか

問六　次のア～オの中から、本文の内容と合致しているものを一つ選べ。

ア　父君の後を追うように母君も亡くなったので、姫君はたった一人、荒れ果てた邸（やしき）で日々を送っていた。
イ　姫君が琴を爪弾（つまび）くと、訪れる人は、いつも何となくもの悲しい気分にさせられるのだった。
ウ　宮の三位の中将は、妻にふさわしい女性を見付けるために、いつも一晩中さまよい歩いていた。
エ　宮の三位の中将は、若い人々の中に混じって琴を弾いている姫君を、ただちに見付けることができた。
オ　姫君が涙ながらに、口ずさむともなく歌を詠（よ）んだ様子は、他に比べようのないすばらしさだった。

問七　『あきぎり』は、中世に成立した物語であるが、中世に成立した文学作品を、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　更級日記　　イ　雨月物語　　ウ　奥の細道　　エ　古今和歌集　　オ　沙石集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「　　　　」

世を
- 捨つ
- 背く
- 遁る
- 離る
- 厭ふ

様を変ふ

形を変ふ

頭下ろす

御髪下ろす

まことの道に入る

発心す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　復習問題

①「これゆゑそむくべきうき世なりけり」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　こういうことがあるから世の中はよくならないのだ。
イ　これをきっかけに世の中をよくしていこう。
ウ　これをきっかけに出家してしまおう。
エ　こういうことがあっても恋はあきらめない。

②「さまかへ」の内容として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　離縁すること　イ　出家すること　ウ　零落すること
エ　身を隠すこと　オ　髪上げをすること

③「ゆかしさ」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　心が慎み深いさま　イ　たまの派手な美しさ　ウ　心がひかれるさま
エ　たまのやさしい輝き　オ　心が落ち着くさま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「らうたげなり」とはどういう意味か。最適なものを次の中から選べ。

ア　疲れている様子である　イ　可愛らしい様子である　ウ　大儀そうな様子である

エ　初々しい様子である　オ　哀れな様子である

⑤「ながめがちならんもいとほしくて…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　いつも留守がちであるのも　イ　長雨に降り込められがちであるのも

ウ　もの思いに沈みがちであるのも　エ　落ちぶれて貧しくなりそうなのも

オ　何事にも意欲をもてなさそうなのも

⑥「返し参らせ候ひなむ」の「候ひなむ」の文法的な説明として、適切なものを次の中から選べ。

ア　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋願望の終助詞「なむ」

イ　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋意志の助動詞「む」の終止形

ウ　尊敬の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

エ　丁寧の補助動詞「候ふ」の連用形＋強意の係助詞「なむ」

オ　謙譲の補助動詞「候ふ」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の連用形＋意志の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　『大和物語』

次の文章を読み、後の問い（問一〜問八）に答えなさい。この文章は『大和物語』の一節で、主人公の平中が、ある「女」と契りを結んだその翌朝の場面から始まっている。

平中、そのあひけるつとめて、人おこせむと思ひけるに、（注1）つかさのかみ、にはかにものへいますとて寄りいまして、寄りふしたりけるを、おひ起こして、「今まで寝たりける」とて、（注2）逍遥（せうえう）しに遠き所へ率ていまして、酒飲み、ののしりて、さらに帰し給はず。からうじて帰るままに、（注3）亭子の帝の御ともに大井に率ておはしましぬ。そこにまた二夜さぶらふに、いみじう酔ひにけり。夜ふけて帰り給ふに、この女のがり行かむとするに、方ふたがりければ、おほかたみな違（たが）ふ方へ、院の人々類して往（い）にけり。「この女、いかにおぼつかなくあやしと思ふらむ」と、恋しきに、「今日だに日もとく暮れなむ。行きて有様もみづから言はむ。かつ、文をやらむ」と、酔ひさめて思ひけるに、人なむ来てうちたたく。「たそ」と問へば、「なほ（注4）尉（ぞう）の君（きみ）にもの聞（きこ）えむ」といふ。さしのぞきて見れば、この家の女なり。胸つぶれて、「こち、来」といひて、文をとりて見れば、いと香ばしき紙に、切れたる髪をすこし（注5）かいわがねてつつみたり。いとあやしうおぼえて、書いたることを見れば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あまのがはそらなるものとききしかどわがめのまへのなみだなりけり

と書きたり。あまになりたるなるべしと見るに、目もくれぬ。心きもをまどはして、この使に問へば、「はやう御ぐしおろし給うてき。かかれば御たち（注6）も昨日今日いみじう泣きまどひたまふ。下種（げす）の心地にも、いと胸いたくなむ。さばかりに侍りし御ぐしを」といひて泣く時に、男の心地いといみじ。

（注1）つかさのかみ……役所の長官。
（注2）逍遥……気ままにぶらぶら歩くこと。
（注3）亭子の帝……宇多院。
（注4）尉の君……平中を指している。
（注5）かいわがねて……輪の形に曲げて。
（注6）御たち……「女」にお仕えする女房たち。

問一　「おはしましぬ」の波線部Ａ「ぬ」と文法的に同じものを、本文中の波線部ア〜エから一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部ｘ「からうじて帰るままに」、ｙ「おぼつかなくあやし」、ｚ「心きもをまどはして」の意味として最も適切なものをア〜エからそれぞれ一つ選べ。

ｘ
ア　やっとのことで帰るとすぐに
イ　つらい思いで帰ったところ
ウ　どうにかして帰ったならば
エ　ゆっくり帰るのにまかせて

ｙ
ア　じれったくつらい
イ　あきれるほど奇妙だ
ウ　何とかして会いたい
エ　気がかりでおかしい

ｚ
ア　気持ちを落ち着けて
イ　ためらい躊躇(ちゅうちょ)して
ウ　うろたえあわてて
エ　真剣な様子で

問三　傍線部１「人おこせむと思ひける」の説明として最も適切なものをア〜エから一つ選べ。

ア　寝ている平中を従者が起こそうと思った
イ　平中が女のもとに手紙を送ろうと思った
ウ　役所の長官を平中が仕事にかり出そうと思った
エ　平中が役所の長官を女に会わせようと思った

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部２「方ふたがりければ」について、「方ふたがり」とは陰陽道で「目的地に行くことがはばかられること」を言うが、それを避けるためにすることとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　解脱（げだつ）　イ　物忌み　ウ　結縁（けちえん）　エ　方違（たが）え

問五　傍線部３「今日だに日もとく暮れなむ」の現代語訳として最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　きっと今日だけは日も早く暮れるだろう
イ　おそらく今日は日も早く暮れるだろう
ウ　その上今日までも日も早く暮れてほしい
エ　せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい

問六　本文中の和歌「あまのがはそらなるものとききしかどわがめのまへのなみだなりけり」の中には掛詞がある。それはどの句の中か。最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　あまのがは
イ　そらなるものと
ウ　わがめのまへの
エ　なみだなりけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部４「御ぐしおろし」と意味の異なるものとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　かたち変ふ
イ　世を遁(のが)る
ウ　もとどり切る
エ　袖(そで)をしぼる

問八　傍線部５「男の心地いといみじ」における平中の気持ちを説明したものとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　契りを結んだ女が出家をする時に切ったという髪の美しさに、悲しいながらも思わず目を奪われている。
イ　契りを結んだ女が出家をしたことで使いの者たちも悲嘆にくれていると聞き、たいそう悲しんでいる。
ウ　契りを結んだ女の行方がわからなくなってしまったと使いの者から聞いて、心の底から心配している。
エ　契りを結んだ女の行方を探しているという女の家人たちに、できるだけ力になろうと強く決意している。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　復習問題

①「夢か現かおぼつかなし」の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夢での姫君との出会いを、思い出せない。
イ　姫君との出会いは、夢か現実か判然としない。
ウ　夢で見た姫君と、現実に出会うとは驚きである。
エ　姫君との夢の逢瀬(おう)が、必ず現実となってほしい。

②「おこせたまへ」とは、どのような意味か。次の中から最適なものを選べ。

ア　もう出発してください。
イ　迎えの人を寄こしてください。
ウ　あなたが迎えに来てください。
エ　今日、一緒にお連れください。
オ　唐に行く時は知らせてください。

③「方違へよ」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　唐土の方角（西）へ行きなさい
イ　吉方の所（家）に行きなさい
ウ　出発の儀式を行ないましょう
エ　行く方角を間違えないようにしなさい
オ　撫子の咲いている方角へ行きましょう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「もの一言をだに言はむ」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　さらに何か一言を言わせてください
イ　今ごろ何か一言を言っているだろう
ウ　せめて何か一言だけでも言ってやろう
エ　かつて何か一言だけ言ったことがあった
オ　そのうち何か一言を言うことがあるだろう

⑤　次の傍線部「あまの川」に用いられた表現技法として、最も適当なものを次の中から選べ。

あまの川空なるものと聞きしかどわが目の前の涙なりけり
「尼になるべし」と思ふに、目くれぬ。

ア　歌枕　　イ　縁語　　ウ　掛詞　　エ　序詞　　オ　枕詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講『宇津保物語』

次の文章は、女のもとで一夜を過ごした翌朝、男が立ち去ろうとしている場面である。男には自分を大事に思う親がおり、一晩留守にしたことを大変心配しているだろうと考えている。これを読んで、後の問いに答えなさい。

深き契りを、夜ひと夜、心のゆく限りし明かしたまふも、逢ひがたからむことを、今よりいみじうかなしう思さるるほどに、明かくなれば、(1)さてもあるまじう、思しさわぐらむといみじければ、「なほ、いかがすべき。今日ばかりは、なほかうてもと思へど、同じところにてだに、片時(2)お前ならぬところには据ゑたまはず。(3)あからさまの御供にも、はづしたまはず。昨日心地のあしく覚えしかば、参るまじかりしを、せちにのたまひしかば。(4)そもかうここに参り来べかりければこそと、今なむ思ひ知らるる。さらに心にては夢にてもおろかなるまじけれど、参り来むことのわりなかるべきこと」とのたまへば、女、(ア)

秋風の吹くをも嘆く浅茅生（あさぢふ）にいまはと枯れむをりをこそ思へ

とほのかにいへば、二方（ふたしへ）にいとほしく、あはれなることを思ひ入りて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「葉末こそ秋をも知ら［X］根を深みそれ道芝のいつか忘れむ

あが仏(イ)、(5)おろかなるにな思しそ。(6)さりともかくてやむべきにもあらず。ただつつましきほどばかりぞ」とのたまひて、起き出でたまふに、(7)なほいみじうかなしう思さるれば、単衣の袖を顔におしあてて、(8)とばかり泣き入りて、かくのたまふ。

宿思ふわが出づるだにあるものを涙さへなどとまらざるらむ

とのたまへば、女、うち泣きて、

見る人(ウ)も名残ありげもみえぬ世を何としのぶる涙なるらむ

といふさまも、いと心苦しけれど、殿(エ)のこともいとほしければ、かへすがへす契りおきて出でたまふに、(9)殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ、ただひとところ帰りたまふに、いづれの道とも知りたまはぬうちに、あはれなる人(オ)を見捨てつるに、(10)あれか人にもあらぬ心地して、見めぐらして辻に立ちたまへり。

（『うつほ物語』による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）（3）（5）（8）（9）（10）の現代語訳として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選べ。

（1）さてもあるまじう
1　今後も女をかわいそうに思い
2　いつまでも女のところにいられず
3　まだまだ女とともにいるべきなのに
4　再び女と逢うことが困難だと思い
5　夜明けまではいられそうにないので

（3）あからさまの
1　ひっそりとした　2　はっきりとした　3　めったにない
4　はなやかな　5　ちょっとした

（5）おろかなるにな思しそ
1　私をいい加減なものと思ってくださいますな
2　私はあなたのことを軽くは考えていません
3　ご自分を粗末になさってはいけません
4　二人の将来を真剣に考えましょうよ
5　あなたは私のことを薄情な男とお思いなのですか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(8) とばかり

1 大声で　2 しばらくの間　3 形だけ
4 人目を避けて　5 しみじみと

(9) 殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ

1 屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるので
2 屋敷の中までも人を大勢連れてお歩きになれば
3 せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きにならなければ
4 屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに
5 せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きください

(10) あれか人にもあらぬ心地

1 茫然自失の心境　2 傍若無人の心境　3 泰然自若の心境
4 独立自尊の心境　5 荒唐無稽の心境

問二 傍線部（2）「お前」とは誰の前か。次の１〜５が示す人物の中から一つ選べ。

1 ア「女」　2 イ「あが仏」　3 ウ「見る人」
4 エ「殿」　5 オ「あはれなる人」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部（4）「そもかうここに参り来べかりければこそと、今なむ思ひ知らるる」とは、どういうことか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　昨日親が無理やり自分を連れ出したのは、実はあなたとお会いする運命によるものだったのだと、今わかりました。
2　昨日自分が親のもとを抜け出してきたのは、あなたにお会いするためだったのだと、おわかりいただけましたか。
3　昨日親が自分を家から追い出したのは、実はあなたに会わせたかったからだと、おわかりいただけましたか。
4　昨日親に対して気分がすぐれないと嘘をついたのは、実はあなたのところに忍んで来るためだったのだと、今わかりました。
5　昨日親のところに出かけていったが、本当はあなたのところに来るべきだったと、今わかりました。

問四　傍線部（6）「さりともかくてやむべきにもあらず」を、「さりとも」の内容を明らかにしながら、三十五字程度で現代語訳しなさい。

問五　傍線部（7）「なほいみじうかなしう思さるれば」から読み取れる心情として、最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　後悔　　2　懐疑　　3　未練　　4　同情　　5　嫉妬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　空欄 X に入れるのに最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　め　　2　ね　　3　ず　　4　れ　　5　す

問七　『うつほ物語』は平安時代の作品である。平安時代の作品を次の中から一つ選べ。

1　曽根崎心中　　2　風姿花伝　　3　古事記　　4　和漢朗詠集　　5　十六夜日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　復習問題

①「あからさまに」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　むなしく　　イ　あらわに　　ウ　こっそり
エ　あちらこちら　　オ　ほんのしばらく

②「おろかなる」とはどういう意味か。最適なものを次の中から選べ。

ア　不仲である　　イ　愚かである　　ウ　未熟である
エ　おろそかである　　オ　馬鹿げている

③「あまた」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あたり一面に　　イ　ところどころ　　ウ　たまたま
エ　たくさん　　オ　わずか

④「わりなくて」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　割り切れない思いで　　イ　どうしようもなくつらくて
ウ　暮らすことができずに　　エ　不平不満がたまって

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　次の傍線部の意味として、最も適当なものを、後の中から選べ。

ただ女君一人にて、父大臣、とりわきかなしき者にしたまひて、内宮仕へなどおぼしいそぐ折もあれど、…

ア　いとしい人　　イ　美しい人　　ウ　かわいそうな人
エ　つまらない人　　オ　おもしろい人

⑥　「そこらの年」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　多くの年月　　イ　少しの年月　　ウ　ある程度の年月
エ　一定期間　　オ　幼少の折

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講『今鏡』

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

＊大内記(だいないき)の聖(ひじり)は、やむごとなき博士にて、①文作る道、類(たぐい)少なくて、世につかへけれど、心はひとへに仏の道に深くそみて、あはれびの心のみありければ、大内記にて、記すべきことありて、催(もよお)されて内に②参れりけるに、左衛門の陣などの方にや、女の泣き立てるがありけるを、「何事のあれば、かくは泣くぞ」と問ひければ、「あるじの使ひにて、石の帯(おび)を人に借りて、もてまかりつるが、道に落して③はべれば、あるじにも重く、戒(いまし)められむずらむ。さばかりのものを失ひつる、あさましく悲しくて、帰るそらもなければ、④思ひやる方もなくて、それを泣きはべるなり」と申しければ、「心のうち推し量るに、まことにさぞ悲しからむ」とて、わがさしたる帯をときて、取らせたりければ、「元の帯にはあらねども、むなしく失ひて申す方なからむよりも、⑤おのづから罪もよろしくやはべる」とて、「これを持てまからむずる嬉しさ」と、手をすりて、とりてまかりにけり。さて、片隅に帯もなくて隠れゐたりけるほどに、事始まりければ、「遅し、遅し」と催されて、⑥御倉(みくら)の小舎人(こどねり)とかが帯を借りてぞ、公事(くじ)はつとめられはべりける。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

『*池亭記(ちてい)』とて書かれたる文にも、「身は朝(ちょう)に在りて、心は隠(いん)に在り」とぞはべるなる。*中務宮(なかつかさのみや)の、もの習ひたまひけるにも、文少し⑦教へたてまつりては、目を閉ぢて仏を念じ⑧たてまつりてぞ、怠らず⑨つとめたまひける。

かくて年をわたりけるほどに、年たけてぞ、頭剃(かしらおろ)して、*横川(よかわ)に登りて、法文(ほうもん)習ひたまひけるに、*増賀聖(ぞうがひじり)のまだ横川に住みたまひけるほどにて、「*止観(しかん)の明静(めいせい)なること、前代にいまだ聞かず」と読みたまひける、この入道ただ泣きに泣きければ、聖、「⑩かくやはいつしか泣くべき」とて、⑪こぶしを握りて打ちたまひければ、我も人も事にがりて立ちにけり。

また程経て、「⑫さてもやははべるべき。かの文受けたてまつりはべらむ」と⑬申しければ、また前のごとくに泣きければ、また⑭はしたなくさいなみければ、後のことばもえ聞かで過ぐるほどに、また懲(こ)りずまに、⑮御気色とりたまひければ、またさらに⑯読みたまふにも、同じやうにいと泣きをりければこそ、聖も涙こぼして、「⑰まことに深き御法(みのり)の尊くおぼゆるにこそ」とて、あはれがりて、その文静かに授けたまひけり。

さてやむごとなくはべりければ、*御堂(みどう)の入道殿も、*御戒(かい)など⑱受けさせたまひて、聖みまかりにける時は、*御諷誦(ふうじゅ)などせさせたまひて、さらし布百匹(ぬのももむら)賜ひける。*請文(うけぶみ)には、三河(みかわ)の聖たてまつりて、秀句など書き留めたまふなり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

昔隋の煬帝(ようだい)の智者に報ぜし、千僧一つをあまし、今左丞相(さしょうじょう)の＊寂公(じゃくこう)とぶらふ、さらし布百千(ももち)に満てり

とぞ書かれはべりける。

（『今鏡』による）

＊大内記の聖＝平安中期の漢学者、慶滋保胤(よししげのやすたね)のこと。
＊『池亭記』＝慶滋保胤の作品。
＊中務宮＝具平(ともひら)親王のこと。慶滋保胤の弟子であった。
＊横川＝比叡山にある、三塔の一つ。
＊増賀聖＝多武峰(とうのみね)の山中に隠棲していた、高徳の僧。
＊止観の〜聞かず＝経論の冒頭の一節。
＊御堂の入道殿＝藤原道長のこと。
＊御戒＝仏教に帰依した者が守るべき倫理、規則、戒め。
＊御諷誦＝故人の追善供養のため、僧に読経を請う文。諷誦文。
＊請文＝諷誦文の内容に対する受け答えを記した文。
＊寂公＝慶滋保胤のこと。出家して寂心と名乗った。

問一　傍線部①「文作る道、類少なくて」の説明として、最適なものを次の中から選べ。

1　和歌を代筆する才能に優れており、他の者を寄せ付けないということ。
2　手紙を書くことを仕事にしている人は、他にはあまりいないということ。
3　文章を作ることに関しては、他に並ぶ者がいないほど優れているということ。
4　漢詩を作って朗詠する声の質に恵まれた人は、他にはあまりいないということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部②「参れ」、③「はべれ」、⑧「たてまつり」は、それぞれ誰に対する敬意を表しているか。その組み合わせとして、最適なものを次の中から選べ。

1　②　大内記の聖　③　大内記の聖　⑧　中務宮
2　②　帝　③　大内記の聖　⑧　仏
3　②　大内記の聖　③　あるじ　⑧　仏
4　②　帝　③　大内記の聖　⑧　大内記の聖

問三　傍線部④「思ひやる方もなくて」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　落とした場所に心当たりもなくて
2　貸してくれる人も思い当たらなくて
3　落とした言い訳も思い浮かばなくて
4　どうしたら良いのかもわからなくて

問四　傍線部⑤「おのづから罪もよろしくやはべる」とあるが、この時の「女」の気持ちとして最適なものを次の中から選べ。

1　間違いなく罪も帳消しになるに違いないと安堵する気持ち
2　もしかしたら褒（ほ）められるのではないだろうかと期待する気持ち
3　多少なりとも罪が減じられるかもしれないと喜ぶ気持ち
4　自分から罪を受ける方がよいだろうと畏（かしこ）まる気持ち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部⑥「御倉の小舎人とかが帯を借りてぞ、公事はつとめられはべりける」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　御倉の小舎人とかいう者に帯を貸して、その者に政務も滞りなくおさせになったのでした。
2　御倉の小舎人とかいう者が帯を借りて来て、大内記の聖は何事もなく政務をお勤めになったのでした。
3　御倉の小舎人とかいう者の帯を大内記の聖が借りて、何事もなく無事に任務をこなしなさったのでした。
4　御倉の小舎人とかいう者が大内記の聖に代わって、帯を借りて政務は何事もなく執り行いなさったのでした。

問六　傍線部⑦「教へたてまつりて」、⑨「つとめたまひける」、⑬「申しければ」、⑯「読みたまふ」の動作主の組み合わせとして、最適なものを次の中から選べ。

1　⑦　中務宮　⑨　中務宮　⑬　増賀聖　⑯　増賀聖
2　⑦　大内記の聖　⑨　大内記の聖　⑬　大内記の聖　⑯　増賀聖
3　⑦　中務宮　⑨　大内記の聖　⑬　増賀聖　⑯　大内記の聖
4　⑦　大内記の聖　⑨　増賀聖　⑬　大内記の聖　⑯　大内記の聖

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部⑩「かくやはいつしか泣くべき」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　出家したのに俗世間に未練があるからといって、このようにいつまでも泣いているべきではない。
2　奥深い法文の教えを聞いて老い先が短いことを悲しみ、こうして今から泣いているべきではない。
3　法文を教えてもらうまでの修行が辛いからといって、これほど早い時期から泣くべきではない。
4　法文の初めの部分を聞いただけで内容がわかるはずもないのに、こんなに早くから泣くべきではない。

問八　傍線部⑪「こぶしを握りて打ちたまひければ、我も人も事にがりて立ちにけり」の説明として、最適なものを次の中から選べ。

1　増賀聖が大内記の聖をこぶしを振り上げて叱りなさったから、見苦しく思った作者も周囲の人々もその場から立ち去ってしまった。
2　大内記の聖が増賀聖と法文の解釈をめぐって口論なさっていたので、あきれ果てた作者も周囲の人達もその場から退出してしまった。
3　増賀聖が大内記の聖をこぶしでたたきなさったので、二人とも気まずく思ってその場を立ち去ってしまった。
4　大内記の聖が増賀聖をこぶしでたたきなさって、互いに大人げない行動を恥じてその場を退出してしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部⑫「さてもやははべるべき」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　このまま大内記の仕事から遠ざかっているのはよくない
2　このまま法文の教えを受けない状態でいるのはよくない
3　このまま増賀聖のもとで修行を続けているのはよくない
4　このままいつまでも叱られて泣き続けているのはよくない

問十　傍線部⑭「はしたなくさいなみければ」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　増賀聖が大内記の聖の悪口を世間に言いふらしたので
2　増賀聖が大内記の聖の才能を高く評価したので
3　増賀聖が大内記の聖の願いを聞き入れなかったので
4　増賀聖が大内記の聖をひどく叱ったので

問十一　傍線部⑮「御気色とりたまひければ」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

1　大内記の聖が増賀聖にご機嫌をなおしてもらいなさって、法文の教えを乞うお願いをなさったところ
2　泣いてしまった大内記の聖をなだめすかすようにして、増賀聖が法文の教えを説こうとなさったところ
3　大内記の聖が増賀聖のようすをうかがって、法文を盗み見ようとなさったところ
4　増賀聖が大内記の聖のご機嫌をうかがって、法文の続きを読んでいただこうとなさったところ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十二　傍線部⑰「まことに深き御法の尊くおぼゆるにこそ」の口語訳として、最適なものを次の中から選べ。

1　まことの奥深い仏法の教えを尊んで覚えようとしているのであろう
2　仏法の深い教えがほんとうに有り難く思い出されるのであろう
3　まことの仏の深い教えをようやく理解したのであろう
4　仏法の深い教えがほんとうに尊く思われるのであろう

問十三　傍線部⑱「受けさせたまひて」の口語訳として、最適なものを次の中から選べ。

1　受けさせなさって
2　お受けなさって
3　受けさせ申し上げて
4　お受け申し上げて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十四　問題文の内容と合致しないものを次の中から一つ選べ。

１　心優しい大内記の聖は、人が困っていると黙っていることができず、あとさき考えずに行動してしまうところのある人物だった。

２　漢詩文に優れた才能を発揮した大内記の聖は、普段から仏道にも興味関心を抱いており、どんな時にも心の中で仏を念じていた。

３　信仰心の厚かった大内記の聖は、納得できない教えには、たとえ師の教えであっても最後まで妥協しない芯の強さを持っていた。

４　大内記の聖は時の権力者たちから、その漢詩文に関する能力の高さとともに、信仰心の厚さをも高く評価されていた。

問十五　「四鏡」についての説明として誤っているものを次の中から一つ選べ。

１　『大鏡』は、仮名書きによる最初の歴史物語で、道長を賛美する内容が紀伝体で書かれ、「四鏡」の中でも最高傑作の位置をしめている。

２　『今鏡』は、整然とした紀伝体で書かれているが、内容が平板単調になってしまい、『大鏡』に比べると文学的評価は劣るとされている。

３　『水鏡』は、それまでと異なる編年体を用いて書かれ、『大鏡』に扱われる以前の神武天皇から仁明天皇までの時代について描かれている。

４　『増鏡』は、『水鏡』と同じ編年体を採用し、豊富な資料を基に公家側に立って風雅な宮廷社会を流麗な擬古文で描いている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「　　　　　」の意味

失す
隠る
身まかる
はかなくなる
むなしくなる
いたづらになる
あさましくなる
言ふかひなくなる
いかにもなる

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　復習問題

①「いつしかと待ちいでたるちご」の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　早く大きくなれと
イ　大きくなるのが早すぎると
ウ　いつの間にか大きくなったと
エ　気がつかないうちに生まれていたと

②「念じてこそあらめ」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　辛抱いたしましょう
イ　覚えておきましょう
ウ　謝罪いたしましょう

③「行ひつとめ」は、どのような意味か。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　加持・祈禱の勉強をする。
イ　仏道の修行に励む。
ウ　世の中の混乱を正す。
エ　母親の面倒を見る。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ 次の傍線部の口語訳として、最も適切なものを後の中から選べ。

後拾遺を撰(えら)ばれける時、秦兼久(はたのかねひさ)、行き向かひて、おのづから歌などや入ると思ひて、うかがひけるに、…

ア　みずから　　イ　まれに　　ウ　ひょっとしたら
エ　当然　　オ　ひとりでに

⑤ 「舎人」の読みとして最も適当なものを次の中から選べ。

ア　くろうど　　イ　おとど　　ウ　とねり　　エ　しゃじん　　オ　まろうと

⑥ 『増鏡』はどのジャンルに入るか、次の中から選べ。

ア　歌物語　　イ　随筆　　ウ　歴史物語　　エ　説話　　オ　軍記物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

問一　④　**問二**　②　**問三**　①　**問四**（b）③　（c）⑤　**問五**　⑤　**問六**　④

〈現代語訳〉

今となっては昔のことだが、浮世房が、篠田の方へ行った。昔、篠田の杜には怪しくふしぎな狐がいて、行き来する人をだますと言っていた。篠田村のだれそれとかいう者が、住吉に参拝して帰るときに、道ばたで美しい女に出会った。あれこれと語って夫婦となり、家に帰って年月が経つうちに、一人の子どもを産んだ。その子が五歳のとき、母に抱かれていたところ、（夫が子に）尾が（あるのが）見えたので、（母は）これを恥ずかしがって、この母はもとの狐の姿になって、篠田の杜に隠れてしまった。夫はこの数年来慣れ親しんでいて、妻が狐と知ってもやはり名残惜しく思われて、このように詠んだ。

子を思ふ……＝子を思う親の心は闇だというが、その闇夜ごとに訪ねてきてください。昼は篠田の杜に住んでいるとしても。

と詠んで泣いていたのを、妻の狐は立ち聞きして、この上なく悲しい、と思いながら、窓を隔ててこのように言った。

契りせし……＝（あなたと）契りを結んだ愛情が忘れられないで、私は篠田の杜で泣いています。

と詠んだ。こうして、夫が田を耕していると、その狐が来て夜の間に早苗を植え、水をせき入れ、草を取ったりしていたうちに、毎年豊作であったので、家は大いに裕福になったということだ。浮世房がこのことを思い出し、しみじみとした思いにふけったが、篠田の村の方へ行こうと思うけれども、その篠田村は手に取るように（近くに）見えながら行き着かない。一晩中歩いて、しだいに明け方になり、それから少し感付いて、「これはきっと狐が化かして、このように連れて歩くのか」と思い、「ふだん聞いていることがある」と、顔を懐に入れて袖口からのぞいて見ると、背中がはげている古狐が、後ろ足で立って先に（歩いて）行く。「思った通りだ」と思い、声を上げて、「生首切られの古狐め」と言って追いかけたところ、田も畦道も何のその、狐は逃げていなくなった。浮世房は、夢が覚めた心地で、「ここはどこか」と人に問うと、「天王寺の前である」と言う。「残念なことに化かされたのだなあ」と思うがどうしようもない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕　※「敬語」の「重要単語」は文法講座で既出のため、省いています。（第二講以降も同様。）

○いにしへ【古】…①ずっと**昔**。　②過去。

○とかく…①**あれこれと**。　②ややもすれば。　③なんにしても。

○さすがに…そうはいってもやはり。

○ちぎり【契り】…①**約束**。**前世からの約束**。　②**因縁**。**男女・夫婦の縁**。

○やうやう【漸う】…①**だんだん**。しだいに。　②かろうじて。やっと。

○ひごろ【日頃】…①**数日**。　②平常。

○さればこそ…**思ったとおりだ**。

○うす【失す】…①**消え去る**。　②**死ぬ**。

○くちをし【口惜し】…①**残念だ**。情けない。　②つまらない。物足りない。　③卑しい。

○かひなし【甲斐無し】…①**効果がない**。ききめがない。**むだだ**。　②とるにたりない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　模範解答

問一　ア　4　イ　4　ウ　4　エ　4　オ　3
問二　a　お仕えしていた　b　差し上げた
問三　4
問四　2
問五　掛詞
問六　娘
問七　①　2　②　6　③　9　④　4
問八　聞く（言ふ）

〔現代語訳〕

今となっては昔のことだが、朱雀院の女御と申し上げる方は、小野宮の太政大臣の御娘である。その女御があっけなく亡くなりなさった。

ところで、その女御のおそばにお仕えしていた侍女がいた。名前を助と言った。（助は）容貌や人柄をはじめとして、風雅の心もすぐれていたので、女御がこの侍女を親しく身近な者として、目をかけていたので、侍女も親しく慕って過ぎたうちに、（助は）常陸守の妻になって、（夫の）任国に下ってしまった。（助は女御に対して）申し訳なく思ったが、無理矢理に常陸守が誘ったので、その任国に下っても女御を恋い慕い申し上げていたので、あの女御にお目にかけようと思って、美しい貝をいくつも拾って、一揃いの箱に入れて京に持参したが、女御が亡くなりなさったと聞いて、ことばでは言いようもないほどに泣き悲しむのであった。

しかし、どうしようもなくて、その一箱の貝を、これを御誦経のお布施に当ててくださいと言って、太政大臣に（助が）差し上げたが、（その）貝の中に、助がこのように（和歌を）書き入れてあった、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

拾ひおきし……＝（あなたに差し上げようと思って）拾っておいた渚の貝ですが、あなたが亡くなったと聞いて、身のない貝殻のような私は、これからはだれを頼りにして生きていったらいいのでしょうか。

と（詠んであった）。太政大臣はこれをご覧になって、涙にむせ返って、泣きながらご返歌としてこのように（詠んだ）、

たまくしげ……＝（お前の）深い嘆きを移したこの箱の貝殻を、私もまた亡き娘の形見と思って拾うばかりだ。

と。本当に当時は、これを聞いて泣かない人はいなかったと、語り伝えているという。

〔**重要単語**〕

○はかなし【果敢無し】…①**頼りない**。②**なんにもならない**。③**たわいもない**。④たいしたことではない。
○かたち【形・容・貌】…①**姿**。②**容貌**。③美しい顔だち。④ようす。
○をかし…①**趣がある**。②**すばらしい**。③**かわいらしい**。④滑稽だ。
○むつまし【睦まし】…①**親しい**。②慕わしい。
○あはれなり…①**しみじみと心を動かされる**。②美しい。③さびしい。④かわいそうだ。⑤いとしい。⑥情が深い。⑦尊い。
○こころぐるし【心苦し】…①**つらい**。②心配である。③**気の毒だ**。
○あながちなり【強ちなり】…①**むりやりなさま**。②度を越している。③ひたむきだ。
○いざなふ【誘ふ】…**連れて行く**。**誘う**。
○いへばおろかなり【言へばおろかなり】…**言うまでもない**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　模範解答

問一　９　**問二**　５　**問三**　８　**問四**　全く（絵）筆を取らない（八もしくは九字）
問五　３　**問六**　４　**問七**　５　**問八**　すべて絵に

〈現代語訳〉

ある人が、私の所に来て、「絵に魂を入れると申すことは、どのようなことをして描きましたら、魂は入るのでしょうか」と問う。私は答えて言う。「全く絵には限らず、どんなことであっても真心込めてさえいたすならば、魂が入らないというものはあるはずがない。他のことはさあどうだかわからないが、絵に魂が入っていると思うのは、諸国でいろいろな名画も多い中で、私が見た（中では）和泉の国堺に一国寺という寺がある（が、その寺にある絵だ）。この寺は千利休もしばらくいらっしゃった時、風流を尽くして、庭園、座敷が五間ほどもある。一間には檜一本を描いている。一間には臥した鶴二十五羽ほどを描いてある。どちらも彩色があって、古法眼元信〔＝狩野元信〕の筆（である）と言い伝えている。その当時、この絵を描いた絵師が、この寺に滞在すること、三年くらいのうちに、何一つ描いたことがなく、碁を好んで、ただそればかりを毎日の楽しみとして、あるいはあちらこちらと遊び歩くうちに、早くも三年が経った。一度さえも筆を取ったこともないのは、何とも理解できない者だなあと思って、ある時、住職が申し上げるには、『あなたは、絵をもって一家をなしていると言いながら、筆を取ったこともなく、囲碁にだけ年月を過ごしなさるのはいかがなものか。私は、衣食の費用を厭う訳ではないが、どこへでもお行きなさい。私も用事があって、京へ上り、事によっては一年も滞在するかもわかりません』と言うと、その絵師は聞いて、『それは大変名残惜しいことでございます。そうであるならば、長年のお礼に、何か少しの絵を残して申し上げよう』と言って、心構えだけで、また四、五日ほど経つので、住職は何を描くのか見たくなりましたが、（絵師は）全く（絵）筆を取らない。ある夜、小坊主が住職の居間に夜更けて来て、ひそかに申し上げるには、『あそこに行きなさって、そっと覗いて、絵師の様子を御覧なさい』とささやいたので、（住職は）そのまま小坊主に導かれて、絵師のいる居間をうかがうと、（絵師は）明かり障子の腰板に身体を近づ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

けて、さまざまに格好を変えては、寝たり起きたりしている（その）様子を（住職は）見るとすぐに、小坊主を引き寄せ、『来なさい。覗いてはならない。早く寝なさい』と言って、自分自身も寝室に入った。夜が明けて絵師が、朝早くに起き出して、一間の障子に描いたのを（住職が）見ると、みな臥した鶴である。筆の運びや絵全体の力強さには並々ならぬものがあり、色づかいの素晴らしさも筆舌に尽くしがたい。そうではあるが、次の夜はどうかと（住職が）うかがっていると、前夜のように一晩中寝ないで、夜が明けたらこのように描こうかとしているのだろうか、『このようにしようか』、など、ひとりで呟きながら寝たので、住職も知らない顔で過ごしていたが、十日余りで、その鶴およそ二十四、五羽を描いた。さらにまた夜が更けて（住職が）覗いて見ると、今度は肘を張り、足を伸ばし、手を口に当てて、鶴が臥した様子を（住職は）見て寝たが、夜が明けて、その絵師の所に住職が来て、『今日描きなさった鶴の姿は、このように色をつけたでしょう』と、昨夜覗いて見た姿の様子を見せたので、驚いて、（絵師は）『あなたには私が描こうと思っていた心を、早くも悟りなさるのは、どうして知りなさったのか』と問うと、『いや、そうではない。昨夜あなたの様子を、そっと覗いて知ったのだ』と言うので、絵師は、その後、二枚とは描かずに、杉戸の絵に檜一本を描いて出ていってしまったということだ。この檜を描いた後は、東国へ下向する時、東海道箱根の山中で、檜の枝で理想通りの枝があったので、東国へは下らず、再び和泉の国の一国寺へやって来たので、住職は（絵師を）見て大いに驚き、『東国へ行きなさったと聞いたのに、またいらっしゃったのは、どうしたことか』と言うと、（絵師は）『以前に描いた檜の枝は、一枝足らないところがある。箱根でそのことに気がついたので、わざわざ戻ってきた』と言って、一枝を書き添え、別れを告げて去ったということだ。絵に魂を入れるというのは、このようなことだと思った」と言ったところ、ある人も感動して帰った。

〔重要単語〕

○そのかみ【其の上】…①**その当時**。　②過去。昔。

○いとふ【厭ふ】…①**いやだと思う**。　②大事にする。

○やがて…①**そのまま**。　②**すぐに**。

○まだし【未だし】…①**まだ早い**。　②**未熟である**。

○よもすがら【夜もすがら】…**一晩中**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　模範解答

問一　エ　**問二**　ア　**問三**　④　**問四**　イ
問五　ウ　**問六**　イ　**問七**　ア　**問八**　ア・オ

〈現代語訳〉

わすれ草……＝（恋の苦しさを忘れるという）忘れ草を、私の下袴の紐につけたけれど、鬼のしこ草で役に立たず、忘れ草というのは名ばかりだったなあ。

わすれ草……＝忘れ草を垣根いっぱいに植えたけれど（恋しい人を忘れられない。ということは忘れ草ではなく）鬼のしこ草が生えてしまったのだなあ。

鬼のしこ草と言っているのは、昔、（ある）人の親が、子を二人持っていた。（この）親が亡くなってしまった後に、（子供が亡くなった親を）恋い慕い悲しむことは、年がたっても忘れることがない。昔は、亡くなった人（の亡骸）を、土を盛って葬ったので、（亡くなった親のことを）恋しくなるごとに、兄弟が、連れ添いながら、親を葬った墓のもとに出かけて行って、涙を流して、兄弟それぞれが持っている心配事や嘆きなどをも、（あたかも）生きている親に向かって言うように、何度も言っては帰って来た。（そうしている間に）兄の男が、年月が積もって、宮仕えをしていて、個人的な過去を思い続けることについても、差し障りになることなどがあって、思ったことは、「普通のやり方では、（悲しい）思いを慰めることができる方法もない。忘れ草という草が、人の思いを忘れさせてくれるらしい」と思って、忘れ草を、親の墓のそばに植えた。その後、弟がしょっちゅう来て、「いつものようにお墓に参りますか」と誘ったけれども、支障が起こりがちになって、連れ添って行けなくなってしまった。（それを）この弟の男が、大変に不本意だと思って、亡くなった親を恋い慕い申し上げることにかかりきりになって、日を過ごし、夜を明かしていたので、「私は（亡くなった親を）お忘れ申し上げないようにしよう」と思って、「紫苑という草が、心に刻んだことを忘れられない（効能を持つ）そうだ」と思って、紫苑を、墓のそばに植えてみたところ、ますます（親を）忘れることがなくて、月日がたっても（墓参りを）し続けていたのを（鬼が）見て、墓の中から声がして、「私は、お前の親の亡骸を守る鬼

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

である。願うことには恐れるな。（私は、お前の親の亡骸だけではなく）お前も守ろうと思う」と言ったので、（弟の男は）恐れながら聞いていたところ、「お前は親に孝行心があることは、年月がたっても、変わることがない。兄君は、（以前はお前と）同じように（亡くなった親を）恋し慕い悲しんでいるように見えたけれども、思いを忘れる忘れ草を植えて、その（忘れるという）効果を手に入れた。お前は、紫苑を植えて、またその（忘れないという）効果を手に入れた。（お前の、親を恋い慕う）心掛けは熱心で、大いに感心に思う。私は、鬼の姿をしているけれども、物事をあわれに思う心がある。また、（私には）その日のうちに起こる出来事を、予知する能力がある。（私が）予知するような出来事があるならば、（お前が見る）夢を通じて示そう」と言って、声は止み、そしてまた、その後、その日のうちに起こるはずの出来事を、（弟は）必ず夢に見るようになった。これを聞くと、紫苑という草を、嬉しいことがあるような人は、植えて常に見るべきである。嘆くことがあるような人は、（紫苑という草は）植えてはならない草である。だから、「『万葉集』にも、忘れ草を、しこの草とは書いているのである」とある人が申していた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○ぐす【具す】…①備わる。　②**一緒に行く**。

○うれへ【憂へ・愁へ】…①**悲しみ**。　②嘆き訴えること。　③**心配**。

○おほやけ【公】…①天皇。　②**朝廷**。政府。　③国家。**世間**。

○さはり【障り】…**さしつかえ**。**さまたげ**。

○うし【憂し】…①**つらい**。　②**いやだ**。　③にくい。　④無情だ。

○しるし【徴・験】…①**前兆**。　②**霊験**。**ききめ**。
【標・印・証】…①目印。　②証拠。　③合図。
【著し】…①**きわだっている**。　②予想通りだ。

○そこ…①そこ。　②それ。　③**あなた**。

○ねんごろなり【懇ろなり】…①親切なさま。**ていねいなさま**。**熱心だ**。　②**親しみ深いさま**。　③まともなさま。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　模範解答

問一　①ウ　③ア

問二　②ウ　④イ

問三　Ａエ　Ｂイ　Ｃカ

問四　Ⅰ　意外なことにびっくりしたとかいうのももっともである

Ⅱ　本当にどうしてうらやましくないことがあろうか、いや、うらやましい限りである

問五　ａべけれ　ｂし

〔現代語訳〕

この世に生きていると、なんとなく忘れることのできないいろいろなことも多く、（涙で）袖も濡れてしまいそうな道理も自然とわかってくるが、（それでも思い出に執着していることが）恥ずかしく思われるけれども、とりわけ弘安六年四月十九日、いつものように、（御深草院が）離宮の嵯峨殿へお出かけなさって（そこから）お帰りになることがあった。（院が）寝なさった後、春宮さまが、土御門の少将〔＝源具顕〕だけをお供として、院の御所のほうへこっそりいらっしゃってご覧になる。南殿の橘の花が花盛りの時期であるので、（その橘の）香を慕わしく思う郭公もいるだろうかと（春宮が）お待ちになっていらっしゃるのに、さんざん待たせておいて一声しか鳴かないというのが物足りずに恨めしい。

その頃、左中将〔＝京極為兼〕は、何ごとであったのであろうか、家に閉じこもって長く参上しなかったが、有明の空に鳴いた一声を、（左中将が）寝覚めに聞いているだろうかなど、恐れ多くも（春宮が）思い出しなさるのは、（左中将の）夢の中にもお心が通っているのだろうよ、と自然に思いをめぐらしたところ、

思ひやる……＝思いを馳せています。あなたの寝覚めの気分は、いかがですか。時鳥が鳴いて過ぎていった有明の空を見て。

と（春宮の）御意向があるので、内侍殿が、ぼんやりしている有明の月の光（を頼り）に書いて、橘の花にお付けになった。

しかるべきお使いの者もいなくて、（夜が）明けてしまいそうなので、土御門の少将が、人も連れることなくたった一人、馬

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

で出かけた。自分で馬の轡（くつわ）を引いて門を叩くが、すぐにも開けない。空は明け方になるのも（明るくなり見咎められないかと）あきれながらも趣がある。門を開けた時に、（左中将が）意外なことにびっくりしたとかいうのももっともである。（春宮のような）貴人からではない気遣いでさえ、ちょうどそういう時には嬉しいものなのに、（まして、春宮の）畏れ多いお気遣いも深くて、花の色についても花の香についても（わかる人だけがわかるのだ）と思い出して下さったのも、お使いを迎える嬉しさは本当にどれほど嬉しかっただろうか。同じく春宮にお仕えしている同僚としては、本当にどうしてうらやましくないことがあろうか、いや、うらやましい限りである。めったにない名誉で、生きている身の思い出として、他の人々にも知られておりました。うっすら（夜が）明ける頃に、（土御門の少将が、為兼の返歌を持って）帰参しました。

宮の中……＝春宮御所の中を鳴いて過ぎていったという時鳥は、待っている私の家が賤しいからでしょうか、（私の方では）今もそ知らぬふりをしています。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○ことわり【理】…①**道理**。②理由。

○かはゆし…①**恥ずかしい**。②みていられない。

○あく【飽く】…①**満足する**。②いやになる。

○けしき【気色】…①**様子**。②情趣。③**態度**。④**意向**。⑤**機嫌**。

○とみなり【頓なり】…**急なこと**。にわか。

○あさまし…①**驚きあきれる**。②嘆かわしい。③話にならない。④程度がはなはだしい。

○ことわりなり【理なり】…**当然である**。**もっともだ**。

○かしこし【畏し・恐し】…①恐ろしい。②**恐れ多い**。

【賢し】①利口である。②非常に。

○ありがたし【有り難し】…①**めったにない**。②すぐれている。③**生きながらえにくい**。④尊い。

○つれなし…①**冷淡だ**。②さりげない。③平気だ。④もとのままだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　模範解答

問一　①イ　②ウ　③エ　④ウ　⑤イ
問二　満足なさって
問三　ア
問四　（ア）斉信　（イ）中納言
問五　食事も全く召し上がらないで
問六　憎む〔恨む〕（二字）
問七　a（ア）存続（完了）（イ）り（ウ）已然形
　　　　b（ア）尊敬（イ）る（ウ）未然形

〔現代語訳〕

（為光の）ご子息の、長男〔＝誠信〕は、左衛門督と申し上げた。人を恨み憎む心を起こして亡くなりなさった様子は、ひどく驚きあきれたことだよ。他人に（官位を）越えられ、つらい目にあうことは、誰もがよくおありになることであるが、（左衛門督も）そうなるはずの運命であったのだろう。同じ参議でいらっしゃるけれど、弟殿〔＝斉信〕には人柄や、世間の評判が劣っていらっしゃったからであろうか、中納言の欠員が生じた時に、（左衛門督が）「自分もなろう」などとお思いになり、わざわざ（弟殿に）対面なさって、「今度の中納言は、（あなたは）お望み申し上げなさるな。私が申請するつもりです」と申し上げなさったので、（弟殿が）「どうして、兄上よりお先に（中納言に）なりましょうか。いや、なりません。まして、このようにおっしゃるからには、（私が）願うのはあるべきことではない」と申されたので、（左衛門督は）満足なさって、そのように信じなさって、あまり任官申請の努力をなさらない間のことでいらっしゃったのだろうか、入道殿〔＝道長〕が、この弟殿に、「あなたは（中納言の職を）申請なさらないのか」とおっしゃったので、（弟殿が）「（兄の）左衛門督が申請なさるので、どうして（私が望むことができましょうか）」と仕方なさそうに申されたので、（道長が）「あの左衛門督は、（中納言には）なることはおできにならら

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ないだろう。また、あなたが辞退なさるならば、他の人が任命されるに違いないだろう」とおっしゃったので、（弟殿が）「あの（兄の）左衛門督がなることができないのなら、（私が辞退することも）意味がない、（私を中納言に）任命なさってください」と申し上げなさると、（道長が）「（あなたが）またこのようにお望みになるようなら、他の人をどうして（中納言に任命できようか、いや、できない）」とおっしゃって、（弟殿が中納言に）おなりになったので、（左衛門督が）「どうして、（弟は）私に向かって、（中納言になることは）あり得ないということを（言っておきながら）だましたのだ」とお思いになると、ますます憎しみの心を起こして、除目の翌朝から、両手を強く握りしめて、「斉信と道長に、私はだまされたのだ」と言い続けて、食事も全く召し上がらないで、うつ伏し続けていらっしゃるうちに、病気になって、七日目にお亡くなりになってしまったよ。握りしめなさった指は、あまりに強くて、（手の甲を）突き抜けていたそうです。

〔重要単語〕

○からし【辛し】…①からい。　②残酷だ。　③**つらい**。　④いやだ。　⑤あぶない。

○おぼえ【覚え】…①**よい評判**。　②**寵愛を受けること**。　③記憶。

○わざと…①**わざわざ**。　②正式に。　③特に。

○よしなし【由無し】…①**理由がない**。　②**手段・方法がない**。　③関係がない。　④**無益である**。　⑤よくない。

○いとど…①**ますます**。　②そのうえさらに。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

問一　イ　**問二**　イ　**問三**　イ　**問四**　イ　**問五**　ホ
問六　（a）イ　（b）ニ　（c）イ　**問七**　ハ　**問八**　B
問九　ロ　**問十**　ニ　**問十一**　ヘ　**問十二**　ロ

〈現代語訳〉

今となっては昔のことだが、信濃国に法師がいた。そのような田舎で法師になったので、まだ戒律を受けることもしないで、なんとかして上京して東大寺というところで受戒しようと思って、どうにか上京して受戒した。そして、もとの国へ帰ろうと思ったけれども、「つまらないことだ、あのような仏法のないような所には帰るまい。ここにいよう」という気持ちになって、東大寺の仏様の前に控えていて、どこかに仏道修行をしてゆっくりと住めるところはないかと、四方を見回したところ、南西にあたる方角に山がかすかに見える。そこで修行をして住もうと思って行って、山の中で言葉にできないほど厳しい修行に励んで過ごすうちに、なんと言うこともなく小さな厨子仏を修行をして手に入れた。（それは）毘沙門天でいらっしゃった。

そこに小さな堂を建てて（毘沙門天を）安置申し上げて、言葉にできないほど厳しい修行をして年月を過ごすうちに、この山の麓に身分は卑しいがたいそう裕福な人がいた。そこにこの聖の托鉢の鉢は常に飛んで行っては（食べ）物などは入れて（もらって）来ていた。大きな校倉があるのを（裕福な人が）開けて物を取り出すときに、この鉢が飛んで（来て）いつものように物をもらいに来たので、「いつもの鉢が来た。ひどく強欲な鉢だよ」と言って（手に）取って倉の隅に投げ置いて、すぐに物も入れなかったので、鉢は待っていたところ、（裕福な人は倉の中の）物を整理し終わるとこの鉢を忘れて物も入れず取り出しもしないで、倉の戸に鍵をかけて帰ってしまったところ、しばらくしてこの倉が思いがけずぐらぐらと揺れる。「どうした、どうした」と見て騒ぐうちに、揺れに揺れて地面から一尺ほど揺れて上がるときに、「これはどうしたことだ」と怪しがって騒ぐ。「そうそう、さきほどの鉢を忘れて取り出さないままだった、それのしわざであろうか」などと言ううちに、この鉢が倉から抜け出して、この鉢（の上）に倉が乗ってひたすら上って空に向かって一、二丈ほど上る。そして飛んで行くので、人々は見上げて騒ぎ、呆

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れ返ってわいわい騒いでいた。倉の主もまったくどうしようもないので、「この倉の行く先を見よう」と言って、後ろについて行く。そのあたりの人々も皆走っ（てついて行っ）た。そうして見ていると、だんだん飛んで、河内国の、この聖が修行している山の中に飛んで行って、聖の僧坊の傍らにどんと落ちた。

ますます呆れた思いで、そうかといってこのままにしておくわけにはいかないので、この倉の主人が、聖のそばに寄って申し上げることには、「このような呆れ果てたことがございます。この鉢がいつもやって来ますので（私は何か）物を入れては差し上げていますのに、今日は忙しさに紛れていますうちに、倉に置いて忘れて取り出しもしないで錠をかけてしまいましたところ、この倉がひたすら揺れて、ここに飛んで来て落ちたのでございます。この倉をお返しください」と申し上げたときに、「ほんとうに不思議なことだが、飛んで来たので倉は返すことはできません。ここにはこういうものがないので、ちょうど物を置くのに都合がよい。（この倉の）中にある物はそのまますべて取りなさい」とおっしゃるので、主人が言うには、「どのようにして、すぐに運んで取り返そうか。千石も積んであるのです」と言うと、「それはいとも簡単なことだ。確かにこの私が運んであげよう」と言って、この鉢に一俵を入れて飛ばすと、雁などが続くように残りの俵も（それに）続いて、群雀などのように飛んで続いて行くのを見ると、ますます驚きあきれて尊く感じられたので、「待ってください、全部お返しにならないでください。米二、三百石は残してお使いください」と言うと、「とんでもないことだ。それをここに置いて何にしようか、いや、何にもならない」と言うので「それならば、ただお使いになるだけ、十俵でも二十俵でも差し上げましょう」と言うので、「それほども入り用なことなどあるものか」と言って、主人の家に確かに全部（が戻って）落ち着いた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○おこなひ【行ひ】…①行動。　②**仏道修行**。

○えもいはず【えも言はず】…①**はなはだしい**。　②言いようもなくすばらしい。　③言うねうちがない。

○すずろなり【漫ろなり】…①**なんとなく～だ**。　②**むやみやたらである**。　③**思いがけないさま**。　④**関係もないさま**。

○いみじ…①**はなはだしい**。　②すばらしい。　③ひどい。

○ゆゆし…①**おそれ多く慎まれる**。　②忌まわしい。**不吉だ**。　③たいそうである。　④**すばらしい**。　⑤ひどい。

⑥気味が悪い。　⑦勇敢だ。

○さす【鎖す】…閉じる。**鍵をかける**。

○とばかり…**ちょっとの間**。

○ののしる【罵る】…①**大騒ぎをする**。　②評判が立つ。　③口やかましくいう。

○いと…①**たいそう**。　②まったく。　③（下に打消の語を伴って）たいして（～ない）。

○さうざうし…**物足りない**。**心さびしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　模範解答

問一　ニ　**問二**　ホ　**問三**　けい　**問四**　ホ　**問五**　イ

問六　４　ハ　５　ハ　６　ニ　７　ロ

問七　８　ニ　９　ハ　10　ロ　**問八**　ロ

〔現代語訳〕

常陸の国、下館という所に、中村兵左衛門という人がいた。亡くなった夜半亭の門人で俳諧を好み、（名を）風篁とよんだ。並ぶ者のない金持ちで、住居も似つかわしく、二町四方ほどに構え、前庭の植え込みや裏庭には奇石異木を集め、池に水を引き、鳥を放し、築山の景色は、自然の眺めそのままに贅を尽くしていた。城主も、時々おいでになるような、またとない長者であった。妻は阿満といって、藤井某という大商人の娘で、歌道や音楽の技術にも通じていた。気だても優雅で風流な女であった。それほどの豪族であったが、いつしか家が衰え、なにかにつけて物寂しく、出入りする者も自然に疎遠になった。

その家がこのように衰えようとするはじめには、いろいろな不思議な出来事がたくさんあった。その中で、たいそうひどく身の毛もよだつほど恐ろしかったことは、ある年の年末、新春の準備のために、餅をいつもより多くついて、大きな桶にいくつともなくたくさん入れておいた。その餅が夜ごとに減っていくので、何者が盗んで行ったのであろうかと、疑いながら、桶ごとに戸板のようなもので覆って、その上に非常に大きな石をのせておいた。翌朝早く、不安に思って開けて見ると、覆いはそのままで、餅は半分以上減ってなくなっていた。その頃、主人の風篁は、公の仕事に関わって、江戸にいた。そこで妻の阿満が、万事こまめに家を守って、出入りして使える者たちにまで情け深く、慈悲の心があったので、人々は気の毒なことだと涙をこぼしたようだ。

ある夜、（阿満は）新春の準備で美しい布を裁縫していたが、夜がたいそう更けたので、下男下女たちは皆許して、寝させた。自分一人が一間に引きこもり、（部屋の）あちこちを隅々まで閉め切って、（中を）覗き見る隙間も全くなくして、燈火を明るくかかげて、心静かに縫い物をしていた。水時計の音が聞こえ、ようやく丑三つ時だろうかと思ったちょうどその時、年老いてや

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

せ衰えた狐がゆらゆらと尾を引いて、五、六匹連れ立って、（阿満の）膝元を通って行った。言うまでもなく妻戸も障子も、しっかり閉めてあったので、ちょっとしたわずかの隙間さえないので、どこから入ってくることができよう。たいへん不思議に思って、（阿満は）目も離さずじっと見ていると、（狐は）遮るもののない広い野原を行き交う様子で、そのままかき消すように出て行ってしまった。阿満はそれほどまで恐ろしいとは思わず、これまでの通り縫い物をしていたそうだ。

翌日（私は）その家を訪ねて、「どうですか、ご主人がお帰りが遅くて、なにかと心細くお思いでしょう」などと、言葉をかけて慰めると、阿満はふだんよりも顔つきがきれいで、のんびりと話をして、「昨夜、かくかくしかじかの不思議なことがありました」と告げた。聞いただけでも膝元も寒く、近寄って、「ああ驚いた、それほどの不思議なことがあったのに、どうして下男下女たちを起こしなさらず、一人で我慢なさったのですか。見かけによらず剛胆でいらっしゃったことよ」と言うと、「いえいえ、少しも恐ろしいとも思いませんでした」と語り聞かせた。普段は窓を打つ雨や、荻に吹く風の音でさえ恐ろしいと、（夜具などを）引きかぶっていらっしゃると聞いているのに、その夜だけは、そのようにお思いにならなかったというのは、まったくもって不思議なことである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○つきづきし【付き付きし】…**似つかわしい。ふさわしい。**
○またなし【又無し】…**またとない。**二つとない。
○いうなり【優なり】…①すばらしくよい。②**優雅だ。**
○やさし【優し】…①**つらい。**②**恥ずかしい。**③**優美だ。風流だ。**④**けなげである。**
○つとめて…①**早朝。**②**翌朝。**
○いとほし…①**気の毒だ。**②いやだ。③かわいい。
○まうけ【設け・儲け】…①**用意。**準備。②ごちそうの用意。もてなし。③食事。
○いたく【甚く】…**ひどく。**非常に。
○まもる【守る（目守る）・護る】…①**じっと見つめる。**②ようすをうかがう。③警戒する。④防ぐ。
○こころうし【心憂し】…①**つらい。**②**いやだ。**
○うるはし【麗し・美し・愛し】…①**りっぱだ。**うつくしい。②**きちんとしている。**③格式ばっている。④親しい。
○おどろかす【驚かす】…①びっくりさせる。②**目をさまさせる。**③訪れる。
○まめやかなり【忠実やかなり】…①**まじめなさま。誠実だ。**②本格的だ。
○おどろおどろし…①**気味が悪い。**②**大げさである。**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

問一　(1)　エ　(2)　オ　(4)　エ　**問二**　エ
問三　(北の方は) 仏道修行の妨げにもきっとなってしまいそうなほどお悩みになる。
問四　イ　**問五**　イ　**問六**　オ　**問七**　オ

〈現代語訳〉

北の方は、出家して尼姿におなりになって、「せめて(大納言の)後世の菩提だけでも(弔おう)」と仏道修行なさる中でも、ただこの姫君の将来のことを明けても暮れても心配なさっては、「父君がいらっしゃらないので、入内しての宮中での暮らしも、しっかりとした御後見役もいないので、(入内を)決心することもできそうにないものの、こんなにも世に類のない(美しい姫君の)ご様子を、そのまま虚しく(世間に)埋もれたままで一生を終わりなさってよかろうか」と、(北の方は)仏道修行の妨げにもきっとなってしまいそうなほどお悩みになる。

次第に年月が過ぎて行くと、以前のようではなく(家が)荒れ果てて、土塀なども崩れて、門ではない(所に)通い路も多くできた。秋も半ばになったので、風の音や、虫の声々もしきりに聞こえ、ふだんよりも月は曇りなく澄みきっているときに、格子なども下ろさないで、姫君が、縁側近くに物思いに沈んでいらっしゃっても、ただひたすら(亡き)父君のことをお忘れになるときもなく、月の光や、風の音につけても、全てが物悲しくて、(ご自身の)傍らにある箏の琴を引き寄せて、少し弾き鳴らしなさる。

ちょうどそのころ、宮の三位の中将と(世間で)申し上げる人がいらっしゃった。(この方は)花の色や、月の光を見るにつけても、この世はつらいものとばかり思いなさって、一晩中いつもあちこちさまよい歩きなさって、風情のある所に立ち入って、垣間見をなさるが、思いがけず、箏の琴をゆっくりと盤渉調に弾き鳴らしているのをお聞きになると、「(これは)ありきたりの琴の音色ではない。どんな人なのであろうか」と、知りたくて、土塀の崩れから(中に)お入りになって、物陰に隠れて見ていらっしゃると、縁側の端近くで物思いにふけっていたと見えて、御簾なども少し巻き上げて、たいそう美しそうな若い侍女が、一、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三人ほど見えるが、「どれが琴を弾く人なのか」とご覧になるが、この中には見えないで、奥の方から聞こえてくる。

月が一点の曇りもなく（光が）差し込んで、何の妨げもなく（奥が）見えるが、「まだほんの十四、五歳であろうか」と見えて、見間違いもなく端正で美しい姿で、月の光で一段と美しさが増した髪の垂れ具合、手の様子などは、世間並みの人とは見えない。顔ははっきりと見えないが、空をしみじみと見つめて、ひどく物思いに沈んでいる様子である。可憐で、上品に見える。「いったい世間の誰がこれほど美しいだろうか（並ぶ者はいないだろう）」と、（中将は）分別も失うほどお心を惹かれて、出て行く気になれないでいらっしゃるので、さらに立ち聞きをなさると、（その姫君の）おそばにいる人々が、ひどく物悲しげな話をして、故大納言殿のことなどを語り出して、「もし（大納言様が）生きていらっしゃったならば、このように心細いありさまであっただろうか」、「今ごろは、どのようなお相手であるにせよ、（姫君は）きっと結婚なさっていらっしゃるだろうに」などと言って泣き出したりなどするので、ますます悲しさがこみ上げて姫君もひどく物思いに沈んで、

もの思ふ……＝物思いに沈む涙で空も暗く見えて、そのような自分のせいで月もおぼろに霞んで見えることです。

と、口ずさむともなく歌を詠んだ様子は、実に類なくすばらしいと見えた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○さま（を）かふ【様変ふ】…①**出家する**。姿を変える。　②ふつうと趣を異にする。

○はかばかし【果果し・捗捗し】…①てきぱきしている。　②きわだっている。**はっきりしている**。　③たのもしい。

○ひまなし【隙なし・暇なし】…①**隙間がない**。　②**絶え間がない**。　③油断がない。

○くまなし【隈なし】…①**影がない**。　②行きとどいている。　③隠しだてがない。

○ながむ【眺む】…①物思いに沈んでぼんやり見る。　②じっと遠くを見る。

　【詠む】…詩歌を吟じる。

○あくがる【憧る】…①うわの空になる。　②思いこがれる。　③**さまよい歩く**。

○よし【由】…①**由緒**。　②**方法**。　③**理由**。　④風流。　⑤次第。**〜とのこと**。　⑥縁。　⑦ようす。

○ゆかし【床し】…①**見たい**。**聞きたい**。**知りたい**。　②なんとなく**慕わしい**。

○らうたげなり…かわいらしいさま。

○あやなし【文無し】…①**道理がたたない**。わけがわからない。　②**むなしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

問一　ア　**問二**　x ア　y エ　z ウ　**問三**　イ

問四　エ　**問五**　エ　**問六**　ア　**問七**　エ　**問八**　イ

〔現代語訳〕

平中が、その（女と）契りを結んだ翌朝、（後朝の文を持たせた）人を送ろうと思っていた時に、役所の長官が、急にある所へいらっしゃるということで（平中のところへ）お立ち寄りになって、（平中が物に）寄りかかって寝ていたのを、せき立て起こして、「今まで寝ていたとは」と言って、散歩をしに遠い所へ連れていらっしゃって、酒を飲み、大騒ぎして、まったく（平中を）帰しなさらない。やっとのことで帰るとすぐに、亭子の帝（＝宇多院）が（平中を）お供として大井川に連れていらっしゃった。そこでまた二晩お仕えしていたが、（平中は）すっかり酔っ払ってしまった。夜が更けて（帝が）お帰りになる時に、（平中は）この女のもとへ行こうとすると、方塞がりになっていたので、だいたいみな方違えの方へ、院に仕える人々は連れ立って行った。（平中は）「この女が、どんなに気がかりでおかしいと思っていることだろう」と、恋しいので、「せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい。（女のもとへ）行って事情も自分から言おう。また、手紙も送ろう」と、酔いから醒めて思っていると、人が来て（戸を）叩く。「誰ですか」と問いかけると、「何としても尉の君に申し上げたい」と言う。のぞいて見ると、女の家の下女である。胸がどきっとして、「こちらへ、来なさい」と言って、手紙を受け取って見ると、たいそう香ばしい紙に、切った髪を少し輪の形に曲げて包んである。たいそう不思議に思われて、書いてあることを見ると、

あまのがは……＝天の川は空にあるものと聞いていましたが、私の眼の前を流れる涙の川がそれでした（尼になるなんて自分には関係のないことだと思っていましたが、実は自分の目の前の悲しい出来事でした。）

と書いてあった。（すでに）尼になっているに違いないと思うと、（平中は）目の前が暗くなった。うろたえあわてて、この使いに尋ねると、「もはや御髪を切り落とし（尼になり）なさってしまいました。それでお仕えする女房たちも昨日今日たいそう泣いて取り乱していらっしゃいます。（私のような）卑しい者の心にも、（お気の毒さに）ひどく胸が痛くなります。あんなに美し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

かった御髪ですのに」と言って泣く時に、男の悲しみは本当に大変なものだった。

〔重要単語〕

○おこす【遣す】…①**よこす**。②こちらへ～する。
○にはかなり【俄なり】…**突然だ**。
○からうじて【辛うじて】…**やっとのことで**。
○がり…**～のもとへ**。
○おぼつかなし…①**はっきりしない**。②**気がかりだ**。③**待ち遠しい**。
○あやし【怪し・奇し・異し】…**不思議だ**。
　【賤し】…**粗末だ**。**身分が低い**。
○とく【疾く】…①**早く**。②すでに。
○ふみ【文】…①**書物**。②**手紙**。③**学問**。特に、**漢学**。④**漢詩**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一　(1) 2　(3) 5　(5) 1　(8) 2　(9) 4　(10) 1
問二　4
問三　1
問四　たとえ別れたとしても、このまま二人の仲が終わってしまうはずはありません。（三十六字）
問五　3
問六　1
問七　4

〈現代語訳〉

深い夫婦の契りを、夜通し、思う存分交わして朝を迎えなさるにつけても、（今後再び）会うことがむずかしいことを、今からひどく悲しく思われるうちにも、夜も明けてくるので、いつまでも女のところにいられず、（今頃親が）心配してお騒ぎになっているだろうとひどく気になるので、「やはり、どうしたらよいだろうか。今日一日だけは、やはりこうして（一緒に）いたいと思うが、（親は）同じ家にいてさえ、少しの間もご自分から離れた場所には（私を）お置きにならない。ちょっとしたお供にも、（私を）はずしなさらない。昨日は気分が悪く感じたので、お供をしないつもりだったが、（父が）どうしても（供をせよと）おっしゃるので（仕方なく参りました）。それもこうしてここに参上してあなたとお会いする運命があってのことと、今わかりました。心の中では夢の中でも（あなたを）おろそかにはまったく思ってないが、お伺いすることは無理なことであろう」とおっしゃると、女君は、

秋風の……＝秋風が吹く音を聞いても嘆かれるこの浅茅の生えた野が、今はもうこれまでと枯れてしまう時のことを思うと心配でたまりません。

とかすかに口ずさむと、（男は）一方では親のことが気の毒であり、また一方ではこの女君のことがしみじみといとおしく、両

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

方のことで思い悩んで、

「葉末こそ……＝葉末こそ秋風によって秋を知るでしょうが、その根が深いように二人の契りも深いのですから、あなたの所へ来る道をいつ忘れることがありましょうか、いいえ、ありません。

私の大切な人よ、私をいい加減なものと思ってくださいますな。たとえ別れたとしてもこのまま二人の仲が終わってしまうはずはありません。ただ（親に）遠慮していなければならない間だけ（のことですよ）」とおっしゃって、起きて（女の家を）出られたが、やはりひどく悲しく思われるので、単衣の袖を顔に押しあてて、しばらくの間泣いてから、このようにおっしゃる。

宿思ふ……＝この荒れはてた宿に住むあなたを思いながら私が出ることさえ悲しいのに、そのうえ涙まで流れ出て、どうして止まらないのでしょうか。

とおっしゃると、女は、泣いて、

見る人も……＝契りを結んだあなたも名残惜しそうにも見えない仲ですのに、どうして恋い慕う涙が流れるのでしょうか。

という様子も、まことに気の毒であるけれど、父のことも気の毒なので、何度も約束をして出て行きなさるが、屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに、たった一人で帰りなさるので、どの道を行けばよいのかお分かりにならないうちに、愛しい人を見捨てたので、茫然自失の心境になって、（あたりを）見回しながら道の辻に立ちなさっていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈重要単語〉

○ちぎり【契り】…①前世からの**約束**。②**因縁**。**男女・夫婦の縁**。

○かなし【愛し】…①**かわいい**。**いとしい**。②すばらしい。

　【悲し・哀し】…①かわいそうだ。心が痛む。②ひどい。

○あからさまなり…①急に。②**ちょっと**。

○せちなり【切なり】…①**ひたすらである**。②すばらしい。③大切である。

○おろかなり【疎かなり・愚かなり】…①**おろそかだ**。**いいかげんだ**。②それでは言い尽くせない。③未熟だ。

○わりなし…①**道理に合わない**。**無理だ**。②苦しい。③**しかたがない**。④殊のほかである。

○つつまし【慎まし】…①**遠慮される**。②恥ずかしい。

○あまた【数多】…①**たくさん**。②非常に。

○あれかにもあらず【吾かにも非ず】…**茫然自失の状態**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　模範解答

問一　3　問二　2　問三　4　問四　3　問五　3　問六　2　問七　4　問八　3
問九　2　問十　4　問十一　1　問十二　4　問十三　2　問十四　3　問十五　1

〈現代語訳〉

大内記の聖（＝慶滋保胤）は、立派な博士であって、文章を作ることに関しては、他に並ぶ者がいないほど優れていて、朝廷につかえていたが、心はひたすら仏道に深く寄せて、慈悲の心がとりわけ深かったので、大内記として、記録しなければならないことがあって、呼び出されて宮中に参上したところ、左衛門の陣などの方であろうか、女で泣いて立っている女がいたので、「どういう訳があって、このように泣くのか」と尋ねると、「主人の使いで、石帯を人に借りて、持って帰りましたが、道に落としてしまいましたので、主人にもひどく、叱られるだろう。これほどの物を失くしてしまったことが、情けなく悲しくて、帰る気にもなれないので、どうしたら良いのかもわからなくて、それで泣いているのです」と申し上げたので、「心の中を推察すると、本当にさぞかし悲しいだろう」と言って、自分がつけていた帯を解いて、（女に）与えたところ、「元の帯ではないけれど、（借りた）かいもなく失って弁解する言葉がないよりも、もしかすると罪も減じられるかもしれません」と言って、「これを持って帰る嬉しさ」と、手を合わせて、（帯を受け）取って帰った。そこで、（保胤は）片隅に帯もなく隠れて座っているうちに、行事が始まったので、「遅い、遅い」と催促されて、御倉の小舎人とかいう者の帯を（保胤が）借りて、（何事もなく無事に）任務をこなしなさった。

『池亭記』といって（保胤が）書かれた文章にも、「身は俗世にあって、心は隠遁にある」とあるそうです。中務宮（＝具平親王）が、（保胤に）学問を習いなさった時も、（保胤は）学問を少しだけお教え申し上げては、目を閉じて仏を念じ申し上げて、怠ることなく仏道にお励みになった。

このようにして年月を過ごしているうちに、年取ってから、出家して、横川に登って、法文を習いなさったが、増賀聖がまだ横川に住みなさっていた時で、「止観の明静なること、前代にいまだ聞かず」と読みなさると、この入道（＝保胤）がただひた

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

すら泣くばかりなので、聖は、「こんなに早くから泣くべきではない」とおっしゃって、こぶしを握ってお打ちになったので、二人とも気まずく思ってその場を立ち去ってしまった。またしばらくしてから、「このまま法文の教えを受けない状態でいるのはよくない。例の文をご伝授いただきましょう」と（保胤が）申し上げたので、（聖が読むと保胤は）また前のように泣いたので、また（聖が保胤を）ひどく叱ったところ、続きの言葉も聞くことができないで過ごすうちに、また懲りもせず、保胤が聖にご機嫌を直してもらいなさって、法文の教えを乞うお願いをなさったところ、また（聖が）改めてお読みになると、同じように（保胤は）ますます泣いて座っているので、聖も涙をこぼして、「本当に仏法の深い教えが尊く思われるのであろう」とおっしゃって、感心して、その文を静かに伝授なさった。

そうしてはなはだ尊くございましたので、御堂の入道殿〔＝道長〕も、御戒などをお受けなさって、聖〔＝保胤〕が亡くなった時には、御諷誦などしなさって、さらし布百匹を下さった。請文には、三河の聖が献上なさって、秀句などを書き留めなさったそうである。

　昔隋の煬帝が（千人の僧に食事を供した時）智者の化身が受けて、一人分足りなくなったが、今左丞相の寂公〔＝保胤〕の追善供養に下さった、さらし布は百千に及んだ

と書きなさりました。

〈重要単語〉

○やむごとなし…①捨ててはおけない。　②**並々ではない**。　③高貴である。
○うち【内】…①内部。　②家の中。　③心の中。　④**宮中**。　⑤**天皇**。
○おのづから【自ら】…①**自然と**。　②**たまたま**。　③**ひょっとして**。
○ねんず【念ず】…①**祈る**。　②**我慢する**。
○つとむ【勤む・勉む・務む】…①勤務する。　②**仏道修行をする**。
○みまかる【身罷る】…**死ぬ**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔**解説**〕

① 「さればよ」は重要単語で、「やっぱりね」の意味。よって、正解はエ。

② **指示内容**は「**前**」が多い。本設問の傍線部の前の部分を訳すと「早く梅が咲いてほしい、来ようといっていた」となる（「いつしか」は「早く」の意味、「なむ」は未然形についているので他者願望の終助詞、「む」は未来推量や意志の意味の助動詞）。よって、正解はイ。

③ 空欄補充の問題は係助詞が絡んでいる場合が多い。本設問も「**なむ**」があるので文末は**連体形**。よって、正解はウ。

④ 「さればこそ」も①同様「やっぱりね・思ったとおりだ」という意味を持つ単語。よって、正解はエ。

⑤ こちらも③同様、係助詞が絡む空欄補充の問題。「**いかで**」の疑問語、さらに、「**か**」の係助詞があるので文末は**連体形**。イ「し」が「き」の連体形、ウ「ぬ」が「ず」の連体形と考えられるのでイかウに絞る。空欄の上が「かへり」で連用形であることから、接続を考えるとウは不可。よって、正解はイ。

〔**解答**〕

①　エ　②　イ　③　ウ　④　エ　⑤　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〔解説〕

① 「ぬ」の識別。**上が未然形**、もしくは、**下が体言**より「**打消**」。よって、正解はイ。

② **「と」の上の「む」**は**意志**が多い。さらに、会話文の中で主語が書いておらず、**尊敬語、命令形ともにない**ので、**主語は一人称**だと考えられる。「～（し）よう」と当てはめて訳して、確認してもおかしくない（「聞こえむ」＝「申し上げよう」）。よって、正解はエ。

③ 「**に**き・**に**けり・**に**たり」の「に」で、上が「死（し）」や「往（い）（＝去（い））」でないものは**完了**。よって、正解はオ。

④ 同じ音で違う意味を二つ持たせる技法は「掛詞」。よって、正解はア。

⑤ 「あながちに」は重要単語で、「無理矢理に」の意味。よって、正解はア。

〔解答〕

①　イ　②　エ　③　オ　④　ア　⑤　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 「やがて」は重要単語で、「すぐに・そのまま」の意味。よって、正解はオ。

② **連用形**に付く「し」は**過去**の助動詞「き」。よって、正解はエ。

③ 「**たえて**〜打消」は「呼応の**副詞**」で「まったく〜ない」と訳す全否定。よって、正解はエ。

④ 「**さらに**〜打消」も「**まったく**〜ない」と訳す全否定の呼応の副詞。よって、正解はイ。

⑤ **下二段**活用の「たまふ」は**謙譲語**。動詞の下に付く補助動詞で、**会話文・手紙文中のみで使用**される。ちなみに、謙譲の補助動詞の「たまふ」の**主語は必ず一人称**（会話主）になる。

〔解答〕

①　オ　②　エ　③　エ　④　イ　⑤　A　ア　B　ウ　C　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〔解説〕

① 大学入試問題で「そこ」の意味を聞かれたら、まずは「あなた・あなたたち」の意味で考えること。よって、正解はイ。

② 「具す」は重要単語で「備わる・一緒に行く」の意味。よって、正解はア。

③ 「しるし」も重要単語で「効果・霊験」の意味。「証拠」の意味もあるが、「見せなむ」の「なむ」は、未然形か連用形についているため、他者願望の終助詞か確述用法。選択肢ウの訳のように「見せられない」という打消や不可能の意味にはならないので、正解はアとわかり、選択肢からこの「なむ」は他者願望だと判断できる。

④ 空欄補充の問題だが、選択肢から係助詞絡みの問題ではなく単語を選ぶ問題。このような場合は**空欄の前後をよく読み、単語の意味を考えて正解を選ぶ**こと。Aは、後ろが「～されて起きた」なので、「目を覚ます」の意味になるウが正解（目を覚まされて起きた）。Bは、前が「笑めるを見ては、百の媚ありと思ふ」なので、プラスを見てはプラスの気持ちになるとわかればよい。後ろは「～気色を見ては、ともに嘆く」なので、Bにはマイナスが入るとわかる。よって、「悲しむ」の意味になるアが正解。

〔解答〕

①　イ　　②　ア　　③　ア　　④　A　ウ　　B　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

①「とみ」は重要単語で、「急なこと」の意味。よって、正解はエ。

②「ことわりなり」は重要単語で、「当然だ・もっともだ」の意味。よって、正解はエ。

③「飽く」は重要単語で、「満足する」の意味。「飽かず」だと「不満だ・物足りない」の意味。よって、正解はイ。

④「ありがたし」は重要単語で、「めったにない」の意味。よって、正解はア。

⑤②同様で、正解はイ。

〔解答〕

①　エ　②　エ　③　イ　④　ア　⑤　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　解答解説

〔解説〕

① 「**つゆ**～打消」は「**まったく**～**ない**」と訳す全否定の呼応の副詞。よって、正解はウ。

② 「れ」の識別。ａは、上の音が**e**段なので「完了・存続」の助動詞「**り**」。よって、正解はア。ｂは、上の音が**a**段なので「受身・尊敬・可能・自発」の助動詞「**る**」。上が心情動詞ではないので、消去法でウの尊敬が正解。

③ 「あさまし」は重要単語で、「驚きあきれる」の意味。よって、正解はイ。

④ 「いとど」は重要単語で、「ますます」の意味。「いとどし」は「いとど」に対応する形容詞。よって、正解はオ。

⑤ 『大鏡』の語り手なので、ア「夏山繁樹」か、エ「大宅世継」であることはわかってほしい。本設問は、さらに「派生的なエピソードの語りを受け持つ人物」とまで問うているなかなかマニアックな文学史問題である。が、『大鏡』が別名として『**世継物語**』や『世継の翁が物語』と呼ばれていることを知っていれば、派生的なほうが繁樹ではないかと予測はできるはず。正解は、ア「夏山繁樹」。

〔解答〕

①　ウ　②　ａ　ア　ｂ　ウ　③　イ　④　オ　⑤　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　解答解説

〔解説〕

＊①～④までは干支で表した**時刻**の問題。「**２（Ｎ（＝何番目）－１）**」の公式にあてはめればよい。漢字が読めないと解けないので、干支は読めるようにしておくこと。もちろん、干支の順番も正しく言えるように。

① 「巳＝み」なのでＮ＝６。よって、（午前）十時。

② 「申＝さる」なのでＮ＝９。よって、十六時。

③ 「午＝うま」なのでＮ＝７。よって、十二時。

④ 「酉＝とり」なのでＮ＝10。よって、十八時。

⑤ こちらは干支で表した方角の問題。「子＝ね」なので、北。よって、正解はア。

⑥ 「ののしる」は重要単語で、「大声で騒ぐ」の意味。よって、正解はイ。

⑦ 「さうざうし」は重要単語で、「物足りない・心さびしい」の意味。よって、正解はイ。

⑧ 「**やは・かは**」は、まず「**反語**」から考える。選択肢に疑問がないことから反語確定。よって、正解はエ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

①　イ

②　オ

③　ア

④　ウ

⑤　ア

⑥　イ

⑦　イ

⑧　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　解答解説

〔解説〕

① 四月は卯月。よって、正解はオ。ちなみに、如月は二月。長月は九月。睦月は一月。水無月は六月。「**月の異名**」は必ず覚えること。

② 長月は九月。よって、正解はエ。

③ 春は一月～三月。「**春のいそぎ**」や「**春のまうけ**」は「**正月の準備**」という意味。よって、正解はウ。

④ 「**糸竹**」は**音楽**のこと。よって、正解はエ。

⑤ 「いとほし」は重要単語で、「気の毒だ」の意味。「いとしい」という意味もないわけではないが、「かねて」は「前から」の意味で、「ずっとひそかに」という意味にはならないので、正解はオ。

⑥ 「おどろおどろし」は重要単語で、「気味が悪い・大げさだ」の意味。よって、正解はイ。

⑦ 「まめやかなり」は重要単語で、「まじめだ・誠実だ」の意味。よって、正解はイ。

〔解答〕

①オ　②エ　③ウ　④エ　⑤オ　⑥イ　⑦イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　解答解説

〈解説〉

① 「世をそむく」は「出家する」という意味。よって、正解はウ。

② 「さま変ふ」も「出家する」という意味。よって、正解はイ。

③ 「ゆかし」は重要単語で、「見たい・聞きたい・知りたい・心がひかれる」の意味。よって、正解はウ。

④ 「らうたげなり」は重要単語で、「かわいらしい」の意味。よって、正解はイ。

⑤ 「ながむ」は重要単語で、「物思いにふける・詩歌を吟じる」の意味。よって、正解はウ。

⑥ 「なむ」の識別。上が**連用形**なので、**確述用法**（助動詞「ぬ」の意味が、選択肢はすべて「完了」で「強意」がないので、「完了」の意味でとればよい）。よって、アとエは削る。「な」は未然形なので、オも削る。「候ふ」には尊敬の意味はない。よって、正解はイ。

〈解答〉

①　ウ　②　イ　③　ウ　④　イ　⑤　ウ　⑥　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　解答解説

〔解説〕

①「おぼつかなし」は重要単語で、「はっきりしない・気がかりだ・じれったい」の意味。「現（うつつ）」も重要単語で、「現実・正気」の意味。よって、正解はイ。

②「おこす」は重要単語で、「よこす」の意味。よって、正解はイ。

③古文常識問題。「方違へ」は、天一神（なかがみ）などのいる方角を避けること。行く方角がこれに当たると災いを受けると信じ、前夜吉方の家に泊まり、そこから方角を変えて目的地に行った。よって、正解はイ。

④「だに」は「～さえ」か「せめて～だけでも」と訳す。選択肢を確認すると「～さえ」と訳しているものがないので、「せめて～だけでも」と訳しているウが正解。ちなみに、**限定**の訳のときは、**下に「意志・仮定・願望・命令」**のどれかがあるはずなので、「言はむ」の「む」が意志だとわかる。

⑤「あまの川」の「あま」に、「天」と「尼」の意味が含まれている。よって、正解はウ。

〔解答〕

①イ　②イ　③イ　④ウ　⑤ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　解答解説

〔解説〕

①「あからさまなり」は重要単語で、「ちょっと・ほんのしばらく」の意味。よって、正解はオ。

②「おろかなり」は重要単語で、「おろそかだ・いいかげんだ」の意味。よって、正解はエ。

③「あまた」は重要単語で、「たくさん」の意味。よって、正解はエ。

④「わりなし」は重要単語で、「道理に合わない・しかたがない（どうしようもない）」の意味。よって、正解はイ。

⑤「かなし」は重要単語で、「いとしい」の意味。「悲しい」の意味もあるが、入試問題になっていれば、まず「いとしい」の意味から考えること。傍線部の前後が「女の子が一人だけなので、父親がとりわけかなしき者として、宮仕えさせよう」となるので、やはり「いとしい」が適切。よって、正解はア。

⑥「そこら」は「あまた」と同義語。「ここら」も同じである。よって、正解はア。

〔解答〕

①　オ　②　エ　③　エ　④　イ　⑤　ア　⑥　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講　解答解説

〈解説〉

① 「**いつしか**～願望」は「**早く**～願望」と訳す。本設問では願望の部分が省略されているが、直後の「待ちいでたる」から何かを「待っている＝望んでいる」のはわかる。よって、正解はア。

② 「念ず」は重要単語で、「我慢する・祈る」の意味。よって、正解はア。

③ 「行ひ」は重要単語で、「仏道修行」の意味。「つとめ」も「仏道修行をすること」。よって、正解はイ。

④ 「おのづから」は重要単語で、「自然と（ひとりでに）・たまたま（まれに）・ひょっとして」の意味。よって、アとエは削る。前後をきちんと読むと、後拾遺和歌集に載せる歌を選ぶ時の話で、「おのづから」歌が入るかと思ってうかがった、と続いていくので、「ひょっとして」が最適。よって、正解はウ。

⑤ 読みの問題。「舎人」は「とねり」と読む。よって、正解はウ。

⑥ 『増鏡』のジャンルは「歴史物語」。よって、正解はウ。

〈解答〉

① ア　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ ウ　⑥ ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。